昭和44年12月23日第3種郵便物認可昭和47年6月1日発行毎月1回1日発行

日本バドミントン協会

バドミントン界

no.33
6
1972

THE BADMINTON WORLD

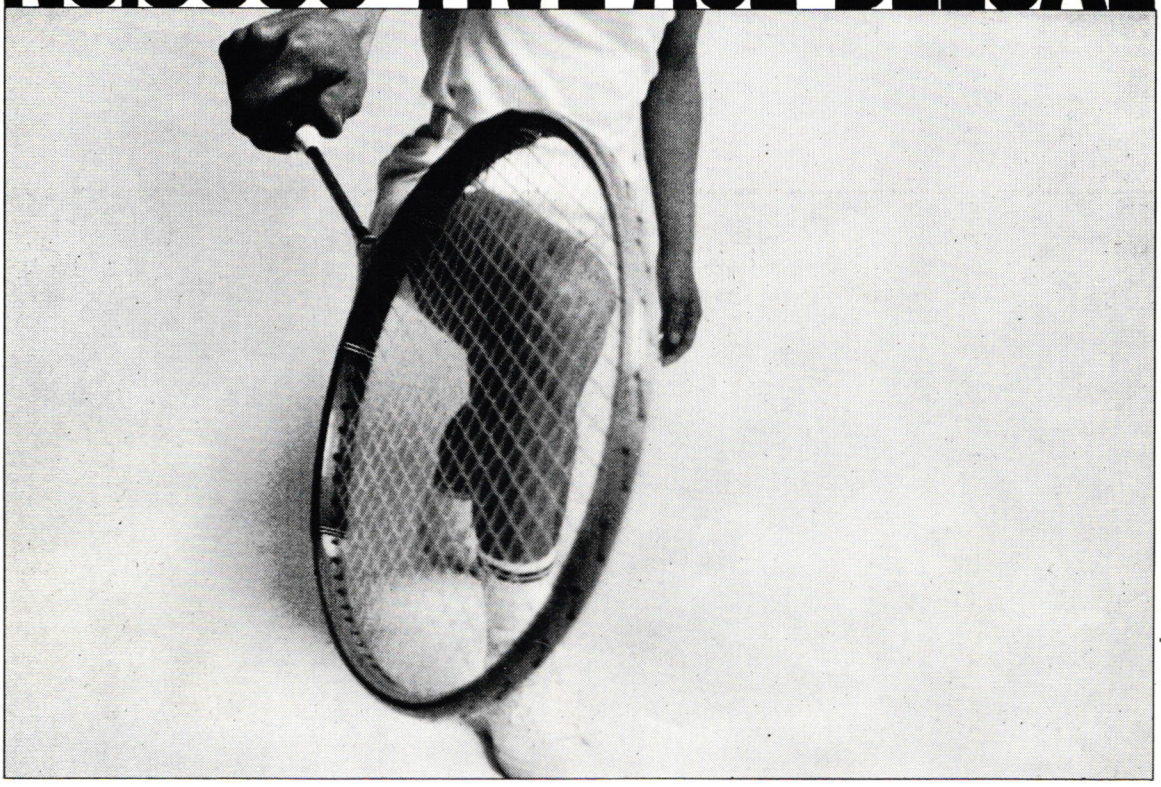








No.6000 FIVE ACE DELUXE



テクニックが冴える

ガット有効面のひろがり

〈バドミントンを科学する〉ヨネヤマのラケットは、ガットの有効面積が、広く設計されている。だから、どこで打っても、シャトルを鋭くとらえる。テクニックが、冴える。狙いに、くるいがない。シャトルとラケットの、一瞬の出逢い。この一瞬を、科学した結論です。ヨネヤマは、カンと経験だけを、頼りにはしません。あくまでも科学的に、探ぐり、割りだして、ラケットを造っているのです。

No.6000ファイブエースデラックス/￥3,500(フレームのみ)

ヨネヤマラケット


ユ杯を守る
六人の美女
Six beauties who represent
Japan for the Uber Cup
Mrs. Noriko Nakayama



Miss Kaoru Takasaka

Miss Hiroe Yuki



Miss Etsuko Takenaka



Miss Machiko Aizawa



Miss Kiyoko Shibayama

今月号のダイジェスト

★**完全優勝めざす日本**、ユ杯の本番がついにやってきた。日本の三連勝は、関心を持つすべての人が信じて疑わないところだろう。前号で、堺コーチがのべたように、14－0で勝ちたいのが、恐らくチームのひそかな願いでもあろう。しかし、勝負はやってみなければわからない。「どんな試合でも、試合終了という審判の宣告を聞くまでは、勝つなどと考えたことがない」というのは日本の中山主将のことば。心がまえとしては、かくありたいものだ。

さて、本番直前にあてて、本号はグラフ特集16ページ。前半に六選手の一枚写真、後半に合宿のレポートを回した。とくに合宿のトレーニング場面は楽しめるはず。報告として、ほかに読売新聞・小林記者による、社会人選手権でのユ杯代表の活躍ぶり、最近の合宿におけるマネジャーのマル秘日記をお届けする。この合宿での選手の体調一覧表も参考になるはずだ。



ウイニングシャトルにサインなんてまだ早いかしら日本のエース中山主将

★**紋次郎も驚くピンポンパン体操の人気**、第一線女子選手アンケートの続編。前号で収録しきれなかった部分をお知らせした。表題は〈よく見るテレビ番組は〉という質問の答えからとったもの。これら一連のアンケートで、読者の皆さんと第一線選手との距離感は、ぐっとちぢまったと思う。

★**やったぜセニョール、ついにマンガ登場**、テレビの劇画や少年少女雑誌でマンガとしてとりあげられているかどうか、これが、そのスポーツの人気度のバロメーターだ。その意味で少女週刊誌「マーガレット」に「ウイニング・シャトルをこの手に」というマンガ劇が登場したことは、喜ぶべき現象。本号でその一シーンを紹介してみた。

★**ワイド版「昔むかし」**バドミントンが、いつごろ日本に定着したのか、どう発展してきたのか、戦前のようすを知っている人は、すでに、もう限られている。さきごろ、叙勲の栄に浴した日本バトミントン協会副会長・広田兼敏氏は、その数少い資料を持ち、みずから幅広い指導者として長年、活躍してきた〝証人〟だ。戦前、外人との交流を通じて、愛好者をふやしていった〝夜明け時代〟のようすをレポートしてもらった。

★**よく使われる用語集**　だれでも知っているはずで、それほど正しく使っていないのが用語。何回かに分載してみる。

〈**表紙**〉中山紀子、湯木博江、この二人について、いまさら説明することもない。同じアパート（部屋はもちろん別）に住むエースの健闘を祈ろう。

バドミントン界

〈47年6月号〉

【特集】ユ杯、さあ本番　「本命日本に死角なし」
・写真グラフ「ユ杯を守る六人の美女」……1
・「皇国の興廃この一戦にあり」……35
・中山、絶対の強味……8
・信頼のきずなを強め、限界に挑め（日記）……9
・合宿体調表から……11
・私はこう見る（防衛に寄せて）……12
◇**紋次郎も驚くピンポンパンの人気**――第一線女子選手アンケート（続）……13
◇**社会人選手権、秋山が輝く2連勝**
・大会運営に抜本的反省を……16
・逆もどりしたサービス・ジャッジ……17
・毛利ユ杯監督アキレスけん切断……17
◇**バドミントンがマンガに登場**……18
〈ウイニングシャトルをこの手に〉紹介
◇**ワイド版「ばどみんとん昔むかし」**
（特別寄稿）日本協会副会長広田兼敏……20
◇**百万人のバドミントン上達法**……28
・ラケットを高くあげよう
・殺しのサービスとレシーブ
・長身選手に共通の問題点
・走り込みの効果を重視しよう
◇**新連載・よく使われるバドミントン用語**……32
レコード（近畿総合選手権）ほか……26
ダイジェスト……7　34
今月のことば……34
編集室……7
表紙……7

スタッフ／表紙撮影・松井亮磨／同制作・小浜正道／グラフ撮影ほか写真・山田真市／イラスト・秦　浩／編集・明本薫、秦　浩／庶務・本島道子／協力・日本協会事務局、各県協会関係者、愛読者

〝本命日本〟に死角なし

ユ杯いざ本番へ万全の体勢

月日のたつのは早い。とうとうユ杯の〝本番〟になった。この一年、何度かの合宿をふくめて、強化練習に励んできた日本は、いまユ杯史上のタイ記録である〝三度連続優勝〟に、その成果を賭けようとしている。

ちょうど三年前、この「バドミントン界」も、ユ杯の防衛を記念して創刊された。当時、ベンチにはいったが、実戦には出場できなかった相沢・竹中組がダブルスで世界の女王。中山（当時・高木）主将を助けて活躍した天野、高橋（現・味澤）はじめ後藤、本間、浦口のメンバーは、もう現役にいない。

本誌の創刊、ユ杯の勝利を起点に、日本のバドミントンも一般に拡がり、認識されるようになってきた。しかしまだまだ充分ではない。今度の日本開催こそ、この愛すべき競技を、全国に根づかせる大きな力としなければいけない。その意味で選手たちは、また別の使命も背負っている。強く、しかも愛すべき人間としてコートに立ってほしい。そしてユ杯に参加したことが、その人の人生に深味をもたらすように祈りたい。

エース中山、絶対の強味

〝六人の美女〟そろって好調

社会人選手権大会の女子の試合ぶりをみて「ユーバー杯大会は絶対に負けることはない」という確信を強くした。

バドミントンの国際団体戦はエースのいるチームが絶対に強い。男子（トマス杯）の現チャンピオン、インドネシアには、全英のシングルスに五連勝した至宝ハルトノがおり、前チャンピオンのマレーシアにはタン・アイク・ハンがいた。女子の場合も、一回から三回まで日本にタイトルをわたすまでの間チャンピオンだった米国には、全英のシングルスで六回も女王となったハーシュマン（現在イギリス）が健在だった。

そして、わが日本のユ杯チームには、中山夫人がいる。社会人大会に見るかぎり、中山のプレーは完ぺきに近かった。準決勝ではようやく復調してきた竹中を11－1、11－1と軽くかわし、決勝では湯木につけいるスキを与えなかった。

ストロークの種類、パワーを比較すると、湯木の方が数段上と見られ、練習では、つねに湯木が勝っているのに、試合となると中山が強い（二人の公式戦での対戦成績は中山の7勝3敗）「バドミントンをよく理解している」ということだろう。

前回のユ杯防衛戦で、第一シングルスの湯木がインドネシアのミナルニに敗れ、日本のムードが悪くなったとき、中山（当時高木）が登場、ポピーを試合時間わずか10分という一方的なゲームでさばき、日本チームに〝カツ〟をいれたことが思い出される。中山が好調なかぎり、日本チームは安泰であろう。

ニガ手の中山に敗れたとはいえ湯木も好調だった。スマッシュのスピードこそ、二、三年前より落ちたが、その分だけうまみを増した。やわらかい手首から打ち出される多彩なショットは、外人選手もめんくらうだろう。

相沢、竹中のコンビは、ようやく本調子に戻りつつあった。おそらくユ杯当日には、二人とも〝完調〟になっているだろう。二人にとって、ただ一つの不安な材料は、前回のユ杯に出場していないこと。堺コーチは「全英には何回も行っているし、現に今春は全英ダブルスのタイトルもとっている。心配ないですよ」と楽観しているが、個人戦と違って、国の名誉をかけた団体戦には独特の雰囲気がある。二人にとっては〝技術〟より、むしろ〝心〟が問題だろう。

準決勝で湯木に敗れた柴山はのびのびとしたプレーで、次期大会の中心選手となるべき素質十分。準々決勝で中山に負けたとはいえ、高坂の独特なカット打法は、前さばきの弱い外人には、意外な実戦力となりそうだ。

「中山、湯木が欠場しても日本はユ杯を防衛できる」と外国チームはみているという。ちょっとオーバーな見方だが、相沢、竹中、高坂、柴山らの、よく訓練されたプレーぶりをみていると「本命日本、死角なし」といい切れる。

読売新聞　小林範夫



信頼の絆を強め、限界に挑戦せよ

第五次合宿日記

ユ杯チームは、候補メンバー決定以来、本番までに、延べ約二カ月にも及ぶ合宿を行なった。この中で最も大事だったのは四月十一日夜から二十二日朝までの第五次（東京都小平・ブリジストン体育館）だった。

それは、正式にベンチ入りするメンバー六人を決めること、もう一つ、実質的には大会前の最終に当たる合宿だったからだ（このあと社会人大会終了後、名古屋で三日、そして五月二十九日から本番出陣のための調整合宿）。

はたして、この合宿でどんな成果があったか。マネジャーの日記、5ページの体調表、巻末写真グラフと合わせて、参考にしてほしい。

4月11日（火）

第5次合宿入り。チーム全員プラス堀川、池田集合。本番決勝のちょうど二カ月前。いよいよ近づいてきている。お互いの信頼感、絆（きずな）をさらに強める、お互い足りない面を補え等、監督からの話あり。

期間もあるので、じっくりやっていきたい（コーチ）限界に挑戦せよ。

4月12日（水）

朝から雨。一日中降り続く。10時ぐらいまでコート整備。BS（ブリジストン）労務課等にあいさつ。昼、小平協会紺野氏、藤川氏来訪。午後、体育館のつごうで、4時で終了。夕方、高野、中村、紺野氏陣中見舞。

4月13日（木）

朝から快晴。気温もあがり、みんなかなり活発に動きまわる。身体がやっということをきき始めた感じ。

4月14日（金）

記者団公開日、できるだけ取材の注文に応じる。バド界・後藤氏、山田カメラマン、読売、NET等来訪。高校生をふくめて見学者多数あり、選手の動きも、だいぶよくなる。

夜遅く、新入社員研修のためおくれていた高崎が合宿入り、10人そろう。堺コーチ若干、熱あり。

4月15日（土）

朝は快晴、しかし昼すぎから雨に変わる。気温少々、低め。

午後、小平市協会関係者十数名見学、毎日記者来訪。自衛隊山本氏、河崎ラケット松浦氏より差し入れ。中山、湯木、相沢、竹中が好調。

夕食時、森友副会長、名古屋



さあ，いよいよ本番へ——練習を終わって，用具を片ずける選手たち。（小平合宿から）

から伊藤鉱一氏（日本協会常務理事）大場氏（愛知県協会理事）来訪。副会長はミーティングにも参加、全英の労をねぎらいさらにまた激励される「ユーバー杯に対し、自重自愛してほしい」と。

4月16日（日）

休日のため参観者多し。監督は常務理事会へ。午前中BSの人とバドミントン教室。コーチマネジャー折りを見て指導する。午後、コーチの奥さんと謙一君来訪、鬼よりこわいコーチのハナの下が長くなる。

夕食は川端理事長宅へ招待される。みな、よく食べ、よく飲む。練習は、やっと動いているという感じで、どうやら第一期ピークのようす。

4月17日（月）

きのうの状態からみて一日休養をとることにする。午前中は自由行動。寝るもの、洗濯するもの、散歩に出るもの等…

午後、BSのタイヤ工場を見学。玄関前の大タイヤの値段を聞かれて、だれも当たらず。正解は実に四百万円ナリ。

4月18日（火）

会長代行として五十嵐氏（肉野菜）村山事務局長（洋菓子）三鷹市婦人バドミントンクラブ村上氏（肉、果物）それぞれ差し入れあり。

休養明けにもかかわらず、余り元気なし。無キズなのは四人ぐらいとさびしい限り。食欲もなく、食事を残す人が多い。

4月19日（水）

高崎、肉ばなれ等で合宿を中止し、帰宅させる。マネジャーが付き添い列車まで。

4月20日（木）

朝七時より10チャンネル（NETテレビ）放映のスポーツニュース〝3連勝は確実〟を見る。

午前中のシングルスで監督、コーチ、マネジャーの男性軍三人とも敗れる。強くなりました!!小平市バド協会の方々等、参観者多数あり。

20時45分、役員三名に中山主将をまじえ、正式チーム（ベンチ入り）メンバーを決定。

4月21日（金）

きょうで合宿も実質的に最終日。みんな、それなりに最後の力をふりしぼってやっているのがよくわかる。午後の練習に男子ナショナル・チームの柵野尾氏参加し、中山、湯木とシングルスをやる。

午後4時前、川端理事長来訪、正選手の名前を報告、了承を得る。理事長、全員を前に「もうひとふんばりしてほしい」むね激励する。

5時、練習終了。体育館清掃関係者へのあいさつの後、帰宿。夜はミーティングなしで大いにさわぐ。

中山、柴山が安定——合宿に見る体調データ（食事、睡眠）から

次ページの表は、小平合宿で各選手が毎日記入した体調データの一部である。

これには身体の調子（どこか悪いところはないか）その他（なにかいっておきたいこと）の項目もあるが、格別のことはないので割愛した。

表中の記号は◎非常によし、○良好、△普通、×普通以下＝の意味である。コメントは要約だけを載せた。

しかし、これだけのデータからでも、いろいろなことがわかる。特色として、まずあげられるのは、中山と柴山がコンスタントな状態をキープし続けていることだ。中山は中日以降、よくねむれぬ夜が続いたが、それでも食欲の方は落ちていない。柴山は熟睡の方が多いくらい。そして二人とも、他の項目にもほとんど目立つコメントは書いていなかった。このへんにベテランの秘密、若手のたのもしさがうかがわれる。その他の選手は中盤から落ち込み、終盤ようやく持ち直した感じ。これが普通の型だろう。正選手以外は紙面のつごうで省略した。あしからず、ご了承を。

	食事			睡眠			食事			睡眠	
	中山	○	○	△			中山	○	○	○	
4	湯木	△	△	○	◎	朝がすぐきた	4 湯木	△	○	○	○ 良好
月	竹中	◎	◎	◎	◎	朝が早く来る	月 竹中	×	×	×	× 眠れず早くさめる
12	相沢	△	△	○	◎	夜が短い	17 相沢	△	×	△	× 部屋変り寝れず
日	高坂	○	△	△	○	まだねむい感じ	日 高坂	×	△	△	○
	柴山	△	○	○	◎		柴山	○	△	○	◎
	中山	○	○	○	○		中山	○	○	○	×
4	湯木	△	○	○	×	久しぶり練習の疲れ	4 湯木	△	○	○	○ 良好
月	竹中	◎	◎	◎	×	中途半ば	月 竹中	×	×	×	× 眠れず早くさめる
13	相沢	△	○	○	×	朝早くさめる	18 相沢	×	×	△	× 夜暑く足ほてる
日	高坂	△	×	△	◎	充分休みました	日 高坂	×	×	×	△
	柴山	△	○	○	○		柴山	△	△	○	○
	中山	○	○	○	×		中山	○	○	○	○
4	湯木	△	○	○	◎	よくねむった	4 湯木	△	○	○	○ 良好
月	竹中	○	○	○	◎	よくねむれる	月 竹中	△	△	△	× 夜中に目がさめる
14	相沢	△	○	○	×	朝早くさめる	19 相沢	×	×	△	× 体中ほてり寝れず
日	高坂	△	△	○	◎	充分休みました	日 高坂	×	△	○	○
	柴山	△	○	○	○		柴山	○	○	◎	◎
	中山	○	○	○	○		中山	○	△	○	×
4	湯木	△	○	○	○	良好	4 湯木	△	△	○	× よくねむれず
月	竹中	△	○	◎	×	浅い眠り,早くさめる	月 竹中	△	×	○	× よくねむれず
15	相沢	△	×	○	×	眠れなかった	20 相沢	×	×	△	△ 寝つき良早くさめる
日	高坂	○	△	○	◎	充分休みました	日 高坂	△	△	○	○
	柴山	△	○	○	◎		柴山	△	○	○	○
	中山	○	○	○	×		中山	○	△	○	×
4	湯木	△	△	○	○	良好	4 湯木	△	△	○	× 夢をよくみた
月	竹中	△	×	×	×	眠れず早くさめる	月 竹中	△	△	○	× よくねむれず
16	相沢	△	×	△	?		21 相沢	×	△	○	◎ 熟睡
日	高坂	△	×	○	○		日 高坂	△	△	○	○
	柴山	△	○	◎	○		柴山	△	○	○	◎

私はこう見る

ユ杯の防衛戦に寄せて

東京新聞・後藤忠弘

日本は、また勝つんでしょう——バドミントンに深入りしている関係で、いろんな人から、よく聞かれる。

日本協会の広報から、大会プログラム用のアンケートを受けたとき、私は「当然の常識」と答えた。だれでも、そう思っていることだろう。また、勝ってもらわなくてはいけない。しかし、本当にそうだろうか。

いや、日本はむろん勝つだろう。だが、その勝ち方の内容、そして、それを将来にどうつなげていくのか、ということを私は、いささか心配している。

前号の「バドミントン界」にも出ていたように、日本の布陣は、楽なようでいて、その実、なかなか苦しい点がある。簡単にいえば、シングルスの三番手をだれにするか、ということで監督、コーチは悩むにちがいない。

中山、湯木と来て、さて？竹中が全英のタイトルをとった時点なら、考えこむことはなかった。けれども、今回は竹中以下、相沢、高坂、柴山と一長一短あって、ほとんど同列の状態というのが実際だろう。

私はいま、あえて論議のために、いろんな材料を持ち出そうとしている。デンマークも、インドネシアも、そう、ナメてかかれる相手ではない。

地元の利というのは、日本人のような〝テンション民族〟の場合には、逆に作用することもある。毎度、古い話を引き合いに出され、本人もうんざりだろうが、前回（69年）湯木が全英のタイトルをとり〝世界の女王〟の座についていながら、ころりとやられた例もある。個人戦とチーム戦は、やはりちがうのだ。

相手をあなどらず 将来を含めて考えよう

今年の全英で日本勢はほとんどインドネシア選手と当たらなかった。わずかにシングルスで中山夫人が新人スミラと対戦し（3回戦）ただけ。インドネシア勢は背が高くないから、欧州勢と対戦したときは、ある種のハンデを背負う。日本人とやる場合とは、またちがうだろう。情報によればエースのミナルニは出産で来日しないという。

日本にとっては〝好材料〟だが、前回から三年、日本でも若手が出てきたように、当時、日本にころりとやられた新鋭たちも、かなり成長しているはず。一昨年末、日本がアジア大会とインドネシア遠征のさい、いろいろ苦しんだことも忘れてはなるまい。デンマークだって、カガード、フリント組のダブルスを加え、さる一月末の末日時点より50％は戦力向上していると考えたい。

第五次（小平）六次（名古屋）合宿のデータによると、日本勢はかなり疲れている。大会には万全の調子で臨むだろうが、今後、反省材料として合宿のあり方は、日常の練習と合わせ、考えるべきものがある。

70年には湯木、高木、71年に竹中、今春は男子の小島が遠征で故障した。専任トレーナーを活用すべしという声は、合宿をふくめ、一向に重視されない。勝てば官軍——の中に問題が埋没されるのを私は恐れる。



紋次郎もおどろく “ピンポンパン”の人気



好きな色

- 中山、白、黒、黄
- 湯木、白、グリーン、ワインカラー
- 高坂、黒
- 竹中、グリーン、茶色
- 相沢、白
- 柴山、グリーン、黄
- 高崎、ブルー、紺、ブラック
- 石崎、紺、水色
- 堀川、白、紺、黒
- 池田、縁

(秘) 第一線女子選手アンケートから (続)

みなさんマンガがお好きですね。テレビも比較的よく見ていらっしゃるようですね。一人でニヤニヤしたり、笑ったりしているようすが目に浮かびます。次のページ（見開き）に行くと、意外に古風だったり、まじめで純情だったりする人間像がクローズアップされています。要するにバドミントンをやっている人は、みんないい人ばかりで、しかも人生を一生けんめい生きているようですね。二回にわたって掲載した、このアンケート、紙面のつごうで多少はぶいた項目もありますが、どうやら、読者の皆さんも、これで選手を、ぐっと身近に感じるようになったと思います。選手の皆さん、ありがとう。

よく見るテレビの番組

- **中山**
  ①ニュース
  ②洋画劇場
- **湯木**
  ①歌謡番組
  ②ありがとう
  ③洋画ロードショウ
- **高坂**
  ①春の嵐
  ②日曜劇場
  ③クイズ・グランプリ
  ④ニュース
  ⑤天気予報
- **竹中**
  ①映画劇場
  ②ピンポンパン体操
- **相沢**
  ①ナウ・エクスプロージョン
  ②映画劇場
  ③ピンポンパン体操
- **柴山**
  ①夜のヒットスタジオ
  ②ありがとう
  ③ピンポンパン体操
- **高崎**
  ①木枯し紋次郎
  ②遠山の金さん
  ③ピンポンパン体操
  ④スポーツもの
  ⑤歌番組
- **石崎**
  ①日曜劇場
  ②夜のヒットスタジオ

きらいはミセスばかりなり

マンガは

- **中山** きらい
- **湯木** どちらでもない
- **高坂** 好きです
- **竹中** 大好きです
- **相沢** 好き
- **柴山** 好きです
- **高崎** 「少年ジャンプ」が好き
- **石崎** はい
- **堀川** 好きです
- **池田** 好きです

行った所、行きたい所

・**中山** Ⓐデンマークのコペンハーゲン、ニュージランドのナピア。なんとなく、違和感を感じない所ですⒷアフリカと南米まだ行ったことがないのでⒸ生活にけじめがあり、ダ性や成りゆきに流されないこと。

・**湯木** Ⓐマレーシア、シンガポール、デンマーク。東南アジアの明るさ。生活レベルが高くゆとりのあるデンマークは街の感じが好き、人も親切Ⓑ外国なら南ヨーロッパ、国内なら北陸か南九州Ⓒ人との応対の仕方で

・**高坂** Ⓐどこにも行ったことがありませんⒷオーストラリア清潔そうで広い国（広がりがあるから）Ⓒ考え方に幅、広がりがあること

・**竹中** Ⓐデンマーク。人柄がよく、静かであるⒷ南米、北海道Ⓒたくさんあります。スポーツに対する観念では、東南アジアの人は勝負への執念、欧米では楽しむためという本質的な違いがあります。

全般的にコートの内外の区別がはっきりしており、コートを離れると社交的で親しみやすい

Ⓐすでに行ったことのある国で好きな国（場所）その理由Ⓑ行ってみたい国（場所）その理由Ⓒ外国へ行き、または外人と接して感じたこと、学んだこと

欧州人、とくに英国人は職業意識が高く、自分の仕事に誇りを持っている。デンマークではとくに酔っぱらいの姿を見ない、酔っぱらいは人間失格と見なされ罰せられるということです

・**相沢** Ⓐハワイ。いい気候でいつでも泳げて気持ちがいいからⒷカンボジア、アンコールワット。外国の寺院などにある壁画や仏像に興味がありますⒸ態度が堂々として、一つ一つの行動を見ていても少しもこせこせしていない。個人差はあるが性格がさっぱりしている

・**柴山** Ⓑヨーロッパ。社会勉強になると思う。また、いろいろな人と友人になれるから

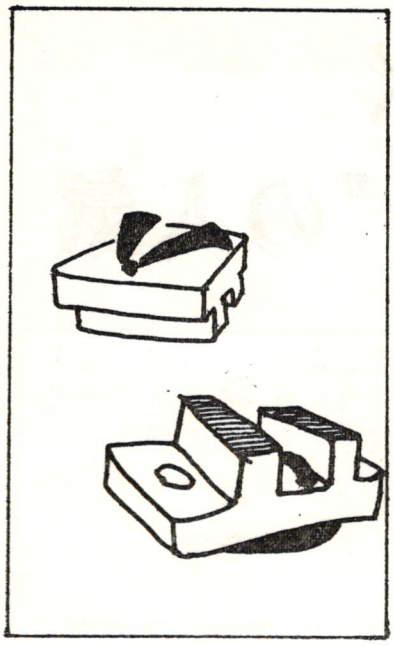
・**高崎** Ⓑスイス、アメリカⒸ力がちがう。あげれば（シャルを）必ずスマッシュですね。手首が強いのもおどろき。いくらスマッシュしても反対に返される。以上はプレーのこと、人柄では、とてもユーモアがあることに感心します。

・**石崎** Ⓑスイスのマッターホルンが見たい。青森にも行きたい。かくしごと？がない。だれとでも気がるに話し、とても表情がおもしろい。試合で絶対アガらない。観衆のざわめきを気にする。

・**堀川** Ⓑヨーロッパ方面

・**池田** Ⓑ北陸。日本海を見たからです

・・・えんぎとお守りは・・・



かつぐ？ かつがない？

・**湯木** かつぎます。夜、ツメを切らないようにする。

・**高坂** かつぎません

・**中山** かつぎます。大きな試合の前には神社にお参りに行きます

・**竹中** かつぎません

・**相沢** かつがない

・**柴山** ……

・**高崎** ……

・**石崎** ……

・**堀川** あまり気にしない

・**池田** かつぎます。数字

持っている？持ってない？

・**中山** お守りはいつも持ち歩いています

・**湯木** 母がお不動様へ行ってもらってきてくれたお守りをハンドバッグに入れている

・**高坂** ありません

・**竹中** ありません

・**相沢** ありません

・**柴山** ……

・**高崎** ペンダント

・**石崎** 別にありません

・**堀川** ない

・**池田** ……

× × ×

（注）サッポロビールが今春、東京、大阪で男女各二百人の勤め人を対象に行った〝お守り調査〟では①持っている人＝男子38・2％、女子49・7％②東西別＝東京47・9％、大阪37・8％③年代別＝十代58・3％、二十歳～二十二歳47・9％、三十六歳～四十歳代50％がベスト3　理由①安心感②交通安全③厄払い④健康⑤家庭のしあわせ

尊敬する人物

・**中山** 秩父宮妃殿下、本田弘敏・日バ会長

・**湯木** 両親。親があればこそ今日あり

・**高坂** 夏目漱石。尊敬とはいえないかもしれないが、物事の感じ方がすばらしい。

・**柴山** 母親。なんでも話を聞いてくれる

・**高崎** 両親、よくわがままな私を育ててくれたと感謝しています。小島一平さん、コート内での動きを見ているうちに。中山紀子さん、私の目標です。

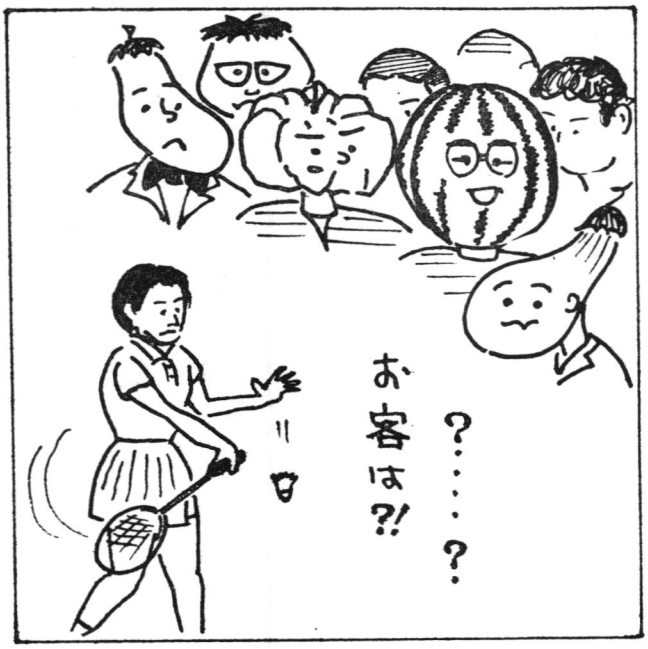
・**池田** 今井先生（日女体監督）

大試合で緊張しますか。それをどうほぐしますか

・**中山**　緊張します。当然のことなので別に気にしないことにしています
・**湯木**　最近はあまりしなくなった。知っている人の方を見たり、話したりする。
・**高坂**　緊張しますが、プレーが始まると自然にほぐれます
・**竹中**　緊張しますがコートにはいり肩ならしで打っているとほぐれてくる
・**相沢**　一時は緊張しますが試合が始まれば直ります
・**高崎**　時々します。観客席を見回します。そしたら直ります
・**石崎**　会場を見渡し大きく深呼吸する。
・**堀川**　緊張する。自分の持つ力を出し尽そう、勝ち負けを気にしないようにと心掛ける

〜　〜　〜

〈**アンケート回答者**〉
中山紀子（弘文堂）
湯木博江（河崎ラケット）
高坂　薫（佐渡汽船）
竹中悦子（ヨネヤマラケット）
相沢マチ子（同）
柴山きよこ（三菱電機）
高崎弘子（同）
石崎茂子（電電東京）
堀川栄美子（日体大）
池田美加（日女体大）



人生の座右銘やモットーにしていることばを、三つまで、あげて下さい

・**中山**
①できるだけ泣きごとをいわない
②実行しないうちにあきらめない
③学業とスポーツは両立させなければいけない
・**湯木**
①努力
②自分に対し正直に生きたい
③他人に迷惑をかけない
・**竹中**
①努力はだれもができる。しかし、たゆまず最大の努力をしたものが本当の勝者になり得る
・**相沢**
①この道より、我を生かす道なし、この道を歩く
・**高崎**
①ど根性
・**石崎**
①一日一日、くいがない
②忍耐
③努力を忘れるな

最近読んで感銘を受けたりタメになったものをあげて下さい

・**湯木**　山本周五郎「さぶ」人を信頼すること
・**高坂**　「人はすべて死す」不死身の男が多くのことに出合い死にたくても、なお生きている。あらためて人生を考えさせられました。
・**竹中**　「砂の女」人間がどうしようもない条件、環境に追い込まれたときのモガキから、しだいに変わっていく心理を描いたもの
・**相沢**　「新平家物語」
・**池田**　「スポーツ人間学」筋肉の思想について」スポーツ選手を、試合そのものの観点とちがう角度からとらえたのが面白かった
・**高崎**　「おれについて来い」日紡（現ニチボー）貝塚バレーボールの大松博文監督著。練習の苦しさ、試合に勝ったときのうれしさ、負けたときのくやしさなどがよく出ていて、実感がありました

長所と短所、自己診断

・**中山**　Ⓐ忍耐強いこと Ⓑそそっかしい。忘れっぽい
・**湯木**　Ⓐ……Ⓑ短気。多少ムラ気がある
・**高坂**　Ⓐカッとなることが少ない Ⓑあきっぽい。自己中心的
・**竹中**　Ⓐ明るいこと Ⓑあわてんぼう
・**相沢**　Ⓐ素直。人と合わせることができる Ⓑ時に素直すぎること。人見知りする。短気
・**柴山**　Ⓐ明るさ Ⓑすぐアタマに来る
・**高崎**　Ⓐ素直 Ⓑ気が弱い
・**石崎**　Ⓐ根性があるように思う。ウソがつけない Ⓑ気が短かい。だまってしまうこと
・**堀川**　Ⓐ小さなことにあまりこだわらない。負けずぎらい Ⓑ人見知りする。気が強すぎる。のろまだと思う
・**池田**　Ⓐ……Ⓑ短気

すぐ泣く？　最近は？

・**中山**　はい
・**湯木**　はい
・**高坂**　いいえ。でも大学のクラブの送別会のとき
・**竹中**　いいえ。全英のダブルスに優勝できたとき
・**相沢**　いいえ
・**柴山**　はい
・**高崎**　はい。テレビで事件の解決シーンを見て
・**石崎**　はい。4月10日、自分自身にハラが立ったから
・**堀川**　いいえ
・**池田**　いいえ

全日本社会人
選手権大会

秋山が輝く2連勝

決勝で小島をくだす

女子は中山が単複とも制覇

読売新聞
小林範夫

社会人選手権大会は、各県登録競技者（大学生、高校生をのぞく）の7％が出場できる。今回の参加者が、実数二百六十七人だから、社会人の競技者は全国で三千八百人以上いることになる。バドミントンのプレーヤーもふえたものだ。

年々ふくれあがる参加者を押えるため、ことしは一般と三十歳以上の両方にエントリーするなど〝かけもち〟を禁止した。しかし、それでも第一日は日程を消化し切れず、二日目に持ち越すといったありさま。

ふえすぎた参加者を押えるため「何とかしなければ……」という言葉は毎年のように聞かれるのだが、抜本的な対策は、一向に立てられないままだ。

社会スポーツをめざすバドミントンにとって社会人大会は一種の〝お祭り〟のようなもの。本来は、登録者――というより愛好者全員が参加できるようなかたちがのぞましいのだが…。

この矛盾（むじゅん）を解決するため、世界一流のプレーヤーが試合をしているというのに、お客さんは、あっちを見たり、こっちをみたり…。まことに焦点が定まらない。そのうえ、カウンター（得点表示係り）が一人しかつかなかったので、カウントの推移が正確にわかるのは〝舞台〟にいる本部役員だけ。

初めて大きな競技会を開く人たちは、どうしても「無事に大会を終了させればいい」と考えてしまうものだ。慣れないのだから当然だろう。そこを指導し協力するのが日本協会の責務であるはず。

他の競技団体が、プロまがいの〝興行〟をやっているときだけに、あまりの〝素朴さ〟が残念でならない。

大会運営に抜本的反省を

ほしい日本協会の強力な指導

第15回全日本社会人選手権大会は五月三日から三日間、三重県四日市の中央緑地体育館で開かれた（関連記事8ページに）

男子シングルスはベテラン同士の決勝となり、先輩の秋山真男（山梨・秋山紙店）が小島一平（ヨネヤマ）をくだして、二連勝三度目の優勝をとげた。ダブルスは関・宮川組（東京・早大教、カワサキ）が準決勝で前年の王者、本間・松島組（愛知トヨタ自工）をしりぞけ、決勝は不戦勝ちで初優勝。関選手としては三度目のタイトル。

女子シングルスは中山紀子（東京・弘文堂）がゆうゆう二連勝、湯木（東京・カワサキ）と組んだダブルスでも全英チャンピオン相沢・竹中組（東京・ヨネヤマ）を破り二連勝した。中山の王座はシングルス通算五度目、ダブルス六度目。

女子ではユ杯組、男子もナショナル・チーム組が順当に上位を占めて注目された。

〔一般男子シングルス〕

▽準々決勝

秋山　真男（1515―2）鈴木　健二（山梨）
小島　一平（1515―5）（東京）
今泉　勉（1515―0）栂野尾昌一（富山）（東京）
小島　一平（1515―1）森　芳夫（東京）（岐阜）
本間　順次（1515―2）池田　信孝（愛知）（東京）

▽準決勝

秋山　真男（1518―214）今泉　勉
小島　一平（1515―6―3）本間　順次

▽決　勝

秋山　真男（1515―8―5）小島　一平

〔一般男子ダブルス〕

▽準決勝

今泉、京田（富山）（7―5、17―14）秋山、窪田（山梨）

関、宮川（東京）（15―18、18―8）本間、松島（愛知）

▽決　勝

関　一誠　今泉　勉
宮川秀樹　不戦勝　京田　照男

〔一般女子シングルス〕

▽準々決勝

中山　紀子（東京）（11―1、11―0）高坂　薫（新潟）

竹中　悦子（東京）（11―2、12―10）高崎　弘子（兵庫）

柴山きよこ（兵庫）（11―1、11―2）相沢マチ子（東京）

湯木　博江（東京）（11―3、11―13）石崎　茂子（東京）

▽準決勝

中山　紀子（11―1、11―1）竹中　悦子

湯木　博江（11―3、11―8）柴山きよこ

▽決　勝

中山　紀子（11―4、11―8）湯木　博江

〔一般女子ダブルス〕

▽準決勝

中山・湯木（東京）（15―3、15―9）柴山・高坂（兵庫、新潟）

相沢・竹中（東京）（15―13、11―15）高崎・石崎（兵庫、東京）

▽決　勝

中山　紀子
湯木　博江（15―13、15―5、13―3）相沢マチ子
竹中　悦子

〔混合ダブルス〕

▽準決勝

堺・天野（東京、岐阜）（15―7、15―1）森谷・藤井（東京）

落合・湯木（東京）（15―4、15―7）池田・阿久津（東京）

▽決　勝

堺　栄一
天野　博江（15―13、15―14）落合　孝之
湯木　博江

〔男子年齢別〕

▽30歳以上シングルス決勝

川上　洋一（富山）（15―11、15―10）遠藤　啓治（神奈川）

▽同ダブルス決勝

遠藤・川上（神奈川、富山）（15―11、2―15）喜多川、田上（東京）

▽40歳以上シングルス決勝

畑　忠雄（福井）（15―3、15―10）浜中　誠（愛媛）

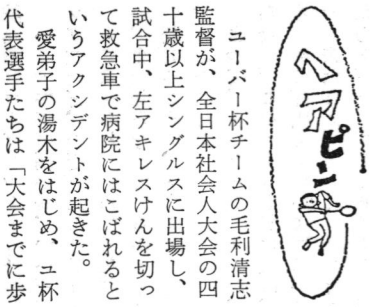
▽同ダブルス決勝

浜中、畑（愛媛、福井）（15―5、12―15）尾崎、八木（兵庫）

▽50歳以上シングルス決勝

伊藤　基記（熊本）（15―6、3―15）上口　正一（東京）

毛利ユ杯監督アキレスを切断



ユーバー杯チームの毛利清志監督が、全日本社会人大会の四十歳以上シングルスに出場し、試合中、左アキレスけんを切って救急車で病院にはこばれるというアクシデントが起きた。

愛弟子の湯木をはじめ、ユ杯代表選手たちは「大会までに歩けるようになるかしら？　車イスでもいいからベンチ入りしてほしい」と青ざめた表情。

協会役員の中には「本来ユ杯選手の試合ぶりをジックリ見るべきなのに自分の試合に出たりするからだ…」という非難の声もあったが「いや毛利さんは自らアキレスけんを切って選手たちに〝無理するとこうなるぞ〟と無言の教訓を与えたんだ。その意味では名監督だよ」という声もあって、妙なところで男をあげていた。

逆もどりしたサービスジャッジ

今回は役を持たない一プレーヤーとしての感想を述べさせていただく。

（1）昨年の国体の折りから突然、火がついたように厳格になっていたサービス・ジャッジが、いつの間にかルーズになりまたもと通りというのは、一体どうしたことであろう。和歌山国体でフォルトを連呼され、すごすご引きさがったプレーヤーが見たら「あのときは悪夢を見たようなもので、これではオーバー・ハンドのやり得ではないか」と思ったにちがいない。

大会の長と名のつく役にいた諸公に猛省をうながしておきたい。チェンジ・サービスとか、セカンド・サービスとか、チェンジ・コートなど旧用語？　がいまだにまかり通っていたことを、諸公はお気付きであったろうか。

（2）地元での観客の動員にどれだけの努力が払われたか。地元の役員方を責める気などさらさらないが、連休中の大会、しかも女子においては世界最高の試合であり、男子もそれに近いものであることを考えると、観衆の少なさをさびしく思わずにはいられなかった。

実業団を来年に、続いて国体をねらう四日市としては、小、中、高校生の動員にもう少し力を出してほしかった。

（3）ユ杯監督の毛利氏のアキレス裂断という不幸が、突然日バを襲った。現役の監督としては日バ最初の人であるだけに惜しまれてならない。開催日までに、松葉杖でもよいから歩けるようになってほしいと心から念願する。

（4）中山夫人のプレーを見て、この人が、日本女子が世界のトップに躍り出た、その原動力であり、推進力であり、けん引力であることを、いまさらのように感じた。恐ろしい選手が出たものである。

（5）一流でありながら日光浴の不足から、ナマ白い選手が多かったのは残念。戸外トレーニングを続けて多少とも日焼けした健康美の上に、ワザを磨いてほしい。

（6）小島、秋山両君の健在はうれしい。小島君はややオーバーヒートしているが、少し休めば必ず盛り返す。秋山君は秋に始まるト杯まで全人生をかけることだ。

こんなチャンスは、めったに来るものではない。あとのナショナル・チームの選手、それに続くものたちは、この二人を猛追してほしい。

候補選手の職場の方々にも、このさい、紙上からくれぐれもよろしくと、伏してお願い申しあげる。

（伊藤基記＝日本協会競技力向上委員長）

やったぜセニョール







バドミントンが、とうとう、少女マンガ雑誌「週刊マーガレット」に登場した。

いまや中年の編集長、ついぞ、この種のマンガ誌など、のぞいたことがなかったので若い人に教えられ、あわてて雑誌を貸してもらい、まだ知らないでいるかもしれない、全国の読者のために、写真にとって、ここに紹介することにした。

よって、どんなストーリーか、いまだに知らない。このページを見た人は、すぐさま本屋（駅の売店でもいいよ）にかけつけて、買って来たまえ。そして、ヘンなところがあったらアドバイスしてあげよう。感激したら、がんばるように、作者の先生に手紙を出してやろう。

知識人も、マンガ!? などといってバカにしてはいけない。マンガは楽しいし、哲学を勉強すると同じように、得るところもあるのだ。いま、テレビやマンガ誌ではスポーツもの、それも根性ものが全盛。批判もあるだろうが、これに取り上げられるようでなければ真に愛され、普及しているスポーツとはいえない。

バレー、サッカー、テニス、体操、水泳、そして、ようやくバドミントン。とりあえず素直に喜ぼう。

作者と編集の担当者は、これを書くために今春のチャンピオンズ・トーナメントを初めて見に行って「びっくりしたナ、もう。意外にすごかった」と、断然、熱が入ったそうだ。



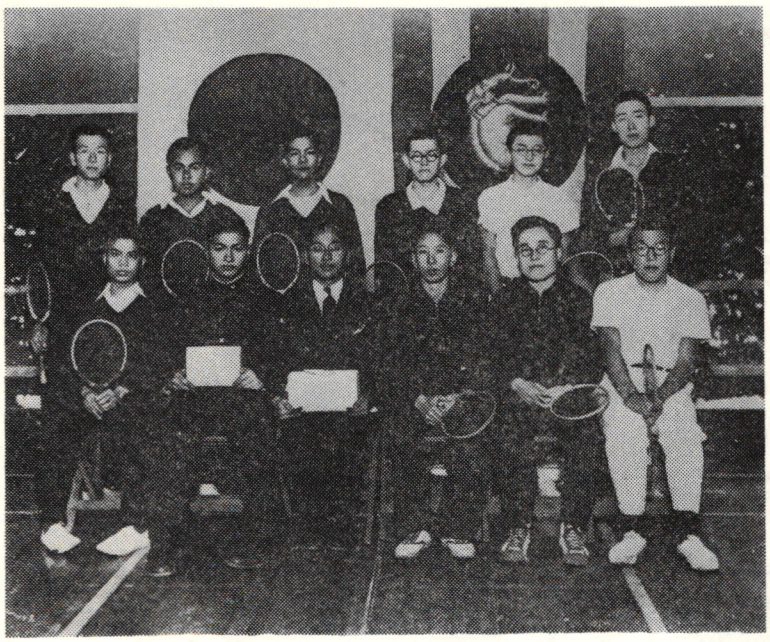
ドラゴンがマンガに登場

ワイド版

ばどみんとん昔むかし

黎明時代とミナト横浜

日本協会副会長　広田兼敏



光は東方から、バドミントンは横浜から——日本にこの競技がいつ、どうはいりこんで、どう成長したのか。江戸時代のむかしはさておくとしても、戦前のことさえ、私たちには、よくわかっていない。

しかし、外人の居留地が多かった神戸、横浜あたりが、実質的なその発祥地ということは、ほぼ間違いないだろう。そのへんのことを知りたいと思っていたところ、さきごろ勲四等瑞宝章叙勲の栄を浴した日本協会副会長・広田兼敏氏から貴重な寄稿をいただいた。夜明け時代を解明する一つの資料となればさいわいである。

スタートは大震災の前後

バドミントンなるものが我が国で発足したのは遠く大正十二年の関東大震災前後の頃であったように思われる。

この時代に横浜、あるいは神戸在住の外人達が、自国から取り寄せた用具を使い、家庭の美しい芝生の上にネットを張りめぐらし、レクリエーション式に楽しく打合っているのを、たびたび見かけることがあった。

今にして思えば、これらが我が国におけるバドミントンの始まりであったろう。昭和六、七年頃からと思うがまだ海水も清らかな横浜・磯子の海辺を眼下に見下せる、今の根岸台の「YC&AC」（明治時代からの各種のスポーツを我が国に取り入れた横浜在住の外人によるスポーツを主としたクラブ）の招きで、慶応大学をはじめ東京の各大学等の初代ラグビー、ホッケー、アメリカンフットボール等が、あの素晴らしい広大な芝生のグランドからスタートした。

YC&CAの東西交流も

これと同じく神戸にも「KR&AC」なる外人スポーツクラブがあった。東西この二つのクラブはそれぞれの正しいスポーツシーズンを守っていた。

バドミントンはウインタースポーツに属し、ホッケー、ラグ

日本最初の国際親善試合、昭和16年横浜YMCAでタイ国留学生の挑戦を受けて行なわれた。当時チームはこれが一つ。右側前後列各3人が日本勢。前列右から三人目が筆者。

ビー等とともに十月に練習が始まった。

シーズン最終期間の四月には東西チームが隔年に来て「インターポート」と称して、前夜は社交ダンス、翌日は試合、その夜は晩餐会を開いて親しみを交していた。今日でもこれは継続されている。

私も「YC&AC」にはむかし、婦人チームのバスケット、コーチ等をしたことがある。バドミントンや、バスケットには今日でもたびたび審判で招かれ「YC&AC」とは切っても切れない仲となっている。

スネード氏が用具寄贈
横浜YMCAに昭和の初め

さて、そのころ横浜YMCAにもバドミントン用具がもたらされた。名誉主事だった故H・S・スネード氏が一カ年の休暇を終えて帰日したとき、持ち返って寄贈したもので、数本のラケットと水鳥のバーズ十二、三



ダースだった。

そこで、せっかくの好意を無にしてはと、数名の有志を集めて、初めて横文字ルールと首っ引きに、このゲームがいかなるものであるかを一通り勉強した。これが競技に興味を持った最初のことだったと思う。

多少、私事にわたるが、それから間もなく、昭和十二年のベルリン・オリンピックを機会に私は洋行した。

我が国洋式運動の発足と指導に力のあったF・H・ブラウン氏、W・S・ライアン氏（ともに北米YMCA体育学士）らのすすめや、実演のため来日したデンマーク体操の父・ニールス・ブック氏等との約束があったからだ。

ベルリンでは次回の東京オリンピック（第二次大戦のため中止されたのはご存知のとおり）に備えてフェンシングを学び、デンマークではブック氏が校長をしているオレロップ体育大の全コースのベストクラスを終え、オーストリアではサンアントンでスキーをした。

また、このブック氏の体育大学在学中は、自由選択のバドミントンでも校内リーグ戦に記録を残した。

デンマーク留
学で腕みがく

そして校長の依頼により毎朝のように同期の学友、ジョン・グレイ（現カナダYMCA名誉主事）と組んで先生組の相手役をつとめた。この時の練習でシングルスはもちろん、ダブルスのダイアゴナル等、当時としては最高の技術を自然と身につけることができた。

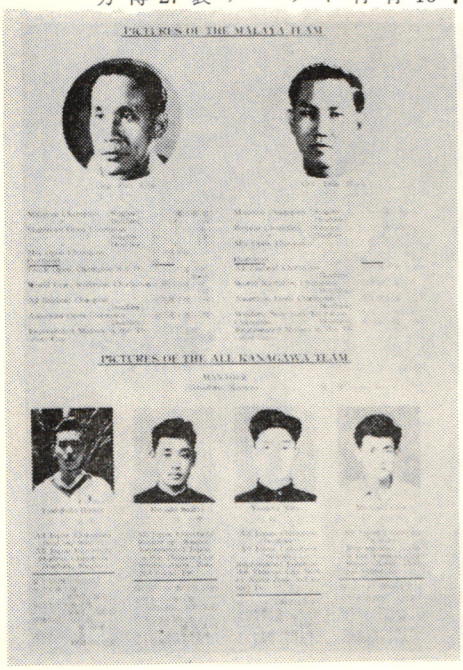
さて、話は昭和の初年に戻る。当時、私は山手の外人の総合学院（セント・ジョセフ・カレッヂ）の校長、フランス人ドクター・ガッシュの依頼により毎週二回、上級クラスの体育クラス指導並びにバスケットボールのコーチをしていた。

一方YMCAでは、帰国されたブラウン氏に代わり、横浜在住外人の希望により外人によるビジネメンクラスを毎週火・金曜日、指導していた。このクラスにはYC&ACのプレシデント、ミスター・ヘセルタン氏をはじめ約三十数名の外人が出席体育場をにぎわした。

たまたまバドミントンの話が持ちあがり、YMCAでもはじめたのなら一度、試合をかそう

プログラム二つ、上は昭和16年5月24日、横浜YMCA体育部主催で行なわれた「室内体育厚生の夕べ」音楽、バスケットなどもふくまれ、フェンシング審判は筆者。

下は31年来日したマレーシア2選手との対抗戦。日本側代表は広田敏秀（筆者長男、26～27年日本チャンピオン）杉田博（混合ダブルス36年同）佐藤芳朗（現常務理事、31、33年同）岡道明（25～26年ダブルス同）だった。



ではないかということになったのである。

外人連合相手におもわぬ白星



相手のチームは香港、カナダ、英国、アメリカ、ドイツ人等のミックスでいづれも経験済みの勇者ぞろい。練習ぶりを見ても勝負はないような気がしたが、いざゲームが始まると、全員意外に善戦、シングルスは6対0で、ダブルスは3対0と全勝の好成績の記録を飾ることが出来た。

英字新聞の大見出しになる

終了後、入浴、そして社交室において特別のもてなしを受け、再会を約して散会したが、翌朝の英字新聞には大見出しで記事が載り、一躍YMCAのバドミントンが認められた。

以後は隔週のように招待を受け相手とミックスを組んだり、この頃からバドミントンの交流が激しくなって来たようで、われわれの技術も一段と向上して来た。

北海道大学の顧門をしている佐藤兄、横浜の仲地兄、大阪の山本兄（他界）当時のドイツ領事館の安井氏、帰国した季兄、前後して当クラブで練習した慶大の森友兄弟等、みな、この当時の優秀な初代プレイヤーである。



昭和14年、日本で初めての県協会が神奈川に設立された。県大会には写真のように外人も多く、はなやかな社交場ともなっていたが18年、戦火きびしく、この集いを最後に中断された。しかし、21年に再開、23年には東京都×横浜市の対抗戦（写真上）を行ない、東京、神奈川両知事からカップが出された。場所は東京・青山師範、36－3で横浜が楽勝した。

ナルトスポーツが用具輸出

従業員がゲームおぼえる

当時は現在と異なって我が国における競技種目も少なく、またバドミントン用具は、いずれの運動具店にも皆無、従って用具の作製はなかった。

ただ一つ特筆すべきは横浜の西大久保にあるラケット製造業者「ナルトスポーツ」が、当時のオランダ領ジャワ（終戦後のインドネシア）への輸出向けラケットの注文を一手に引受けて大量の注文を生産していたことがある。

したがって工員や女工員等が自然にこのゲームを仕事の余暇等を利用してレクリエーションとしていたが、まもなく、全部軍需工場に引きかえられ戦前、せっかく練習を開始した二、三のチーム（コロンビア、古河電線等）も練習が絶えてしまった。

女子チームも結成、YMで

話は前後するが、当YMCA女子体操組の希望により我が国最初の女子チームを組織して練習を始めた。慶大と一般部員のコーチを得て見る見る上達、時々開く部内大会、親睦試合等に好成績を残し、十八年であったと思うが最終の県大会をYMCAで開いた。この大会は写真でご覧のようにYC&ACよりも多数の外人が加わり、女子チームはそれぞれの種目に好成績を残し戦前の大会を無事終了した。

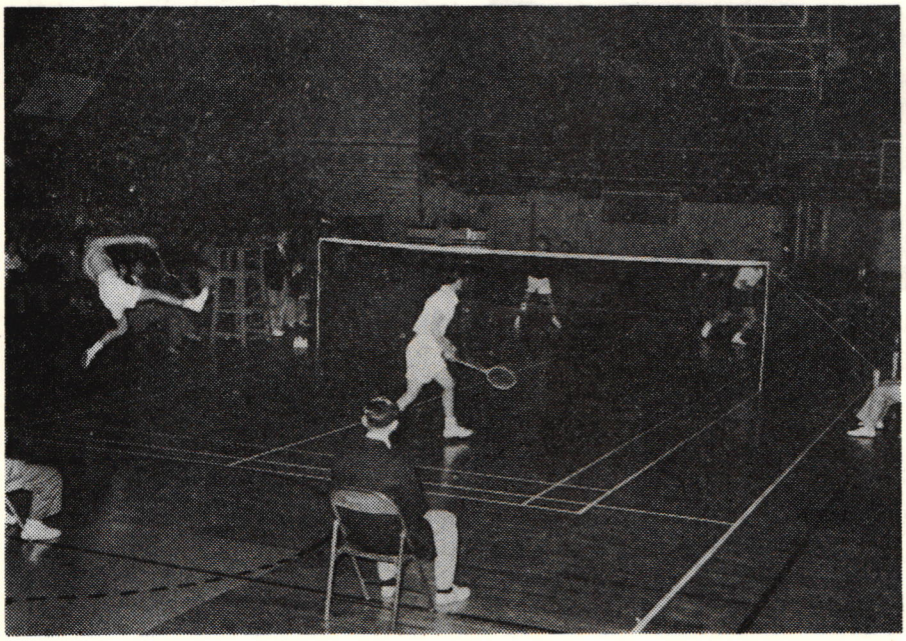
タイ留学生と初の公式試合

また、戦前ではあったが、在日タイ国留学生によるチームから正式の試合申し込みがあったので、好相手到来とばかり、両国の親善を兼ねて両国の旗等も正面に飾り、はなばなしく開催したことがある。

シングルス6、ダブルス3をかわしたが当クラブはシングルスに全勝しながらダブルスは接戦の末全敗した。そしてダブルスのペアの造りの不備がいかに大切であるかを学ぶことが出来た。この試合は、戦前における我が国最初の正式試合であったことをお知らせしたい。

次は外国のことであるが、手近な隣国の話なので、ついでに記録しておく。

十四・五年の頃シンガポールの名選手ビル・ファンクがマライ、ジャワ、セイロン、タイ国等を征して北上し、香港からさらに上海で当時の各大学や実業団間とも交戦して全勝、上海大学他二、三の大学コーチとして活躍、上海は急にバドミントンブームになった。



上海の日本人にも広まる

当時の上海在住の日本人間にも一時バドミントンが伝わり、YMCAを通して、知り合いの福岡の中村高治代および、現在、横浜YMCA理事として健在の高取氏等も、かっての上海における日本人クラブのプレーヤーであった。

YC&ACを征服した横浜YMCAは、上海遠征等も考えてみたが、不幸にも思わしからぬ戦争勃発のため中止となり、日本人は次々に帰国せざるを得ない事態となった。

大戦も終わりを告げ平和は再び戻って来たが、私は国体の他の競技種目の役員として福岡を訪れ、中村氏（当時福岡YMCAの理事）の宅に兵藤兄と二人お世話になったことがある。

21ページのプログラムにあるマレーシア×全日本神奈川代表の一戦。写真は広田選手のジャンプ・スマッシュ。スタンドは小さいが満員の盛況だ。マレーシアの訪日は戦後初めてのことであり、とくに、そのすぐれたダブルス技術に学ぶべきところが多かった。

国体終了後、中村氏の計らいで、全福岡プレーヤーとともに学院コートを借用。バドミントンの講習を兼ねて一日楽しく羽根を打合った。中村氏は九州バドミントン開発の第一人者。

その後も四月の休日を利用して福岡の招きにより、全九州の各大学の代表選手を集めて当時の村上常務理事、ならびに日本選手権保持者の長男（敏秀氏）の協力の下に、熱心な練習講習会を開いて、全九州大学のバドミントン向上に協力したことがある。

その後、中村氏はバドミントン発展の功績により国体の折り、協会から表彰を受け名誉会員の一人として尊敬されていたが、不幸にも昨年の春他界された。



戦後の再出発に進駐軍関係の協力

さて、終戦当時、ただ一カ所立ち場が意外にお役に立つことのメーカーだったナルトスポーになった。というのは、進駐軍ツも、軍需工場からの復帰が遅将校クラブの依頼により、将校れたため、羽根の製作は皆無だ子弟の休日に、いろんなゲームった。や体育の指導を行なっていたからだ。

しかし、そういうとき、私の当然、関係方面に知己や理解者も多かった。横須賀海岸のコロネル・ヒンケル氏、横浜公園内の婦人将校レクリエーションクラブのメイジャー・ロントリー夫人、あるいは現在、横浜の長者町五丁目角に建築されてあったフライヤー・ジムの主任、メイジャー・プリー氏等……。

こうした関係からＹＭＣＡ用の大量の水鳥羽の寄贈を受けることもできたし、各種大会等も比較的スムーズに関催できた。関東大学連盟の結成大会も当ＹＭＣＡで盛大に行なわれた。

日本協会結成 国体種目へ

等二次大戦により、日本のバドミントン組織は、白紙状態に戻らざるを得なかった。

実は大学連盟や日本協会の結成等は戦前から計画されていた。しかし、実現しないままに終戦を迎えたため、国体種目への参加（日本体協加盟）やＩＢＦ（国際バドミントン連盟）への加盟なども、足踏み状態となってしまったわけである。

しかし、戦後、いち早く大阪の松葉、神戸の石渡氏を始め、ＹＭＣＡ関係の諸兄や横浜の県人有志などの協力、賛同を得て日本体育協会、文部省の方針に従った組織を決めた。すなわち昭和二十一年に現在の日本バドミントン協会が正式発足、日本体協加盟が実現した。

トマス杯にも参加（27年）

二十四年にはバドミントンが国体種目となり、二十七年には、かねてより手続きを完了していたＩＢＦ加盟が認められた。

全日本選手権は昭和二十二年にスタート、対外的には昭和二十九年、初めてトマス杯男子世界選手権に参加した。三十一年、当時のチャンピオン国マラヤ（現在のマレーシア）からオンポー・リム（王宝林）テック・ホック（黄福徳）の両選手を招いて最高技術を学んだ。

終戦前後の変動期にバドミントンの普及発展に一致協力された関係諸兄、現会長本田弘敏氏のご功績を常に感謝し、私の拙ない筆をおく。

今井先氏、31年（前ユ杯監督二階堂高教）の渡米を祝い京浜ベテラン横浜ＹＭＣＡに集う。中列左から三人目が今井氏、前列中央筆者、右森友副会長。


SunBatta
SUNBATTA
SUNBATTA KING
SUNBATTA
It's Excellent in the Court.
SUNBATTA KING, KING MATE
SunBatta TOKYO
サンバタ
MOROE SEISAKUSHO CO.,LTD.
46-8, Sasazuka 2-Chome, Shibuya-ku, Tokyo, Japan
Phone : Tokyo (03)377—4401

福井県

■知事杯争奪第七回県実業団選手権（4月23日・福井市体育館）

〔男子一部〕敦賀市役所A 3―0福井市役所、福井銀行A 3―1松文産業、敦賀市役所A 3―0松文産業、福井銀行A 3―0福井市役所、福井市役所1―3松文産業、福井銀行A 3―1敦賀市役所A

▽順位①福井銀行A（4連勝6度目の優勝）②敦賀市役所A ③松文産業④福井市役所

〔男子二部〕福井銀行B 3―2日産サニー、日産サニー3―2白木興業、福井銀行B 5―0白木興業

▽順位①福井銀行B（初優勝）②日産サニー③白木興業

〔男子三部〕北陸電力4―1敦賀市役所B、芝浦製作所5―0北陸電力、芝浦製作所5―0敦賀市役所B

▽順位①芝浦製作所（初優勝）②北陸電力③敦賀市役所B

〔女子一部〕福井銀行5―0福井市役所（福井銀行は2連勝3度目の優勝）

〔女子二部〕大和紡福井4―1敦賀市役所（大和紡初優勝）

■46年度県総合選手権（3月11―12日、敦賀市体育館）

〔男子シングルス〕

▽準々決勝 水上（福井銀行）2―0寺崎（敦賀ク）、梶谷（福井銀行）2―0山本（福井ク）、笠川（福井銀行）2―1原（敦賀ク）、山内（勝山ク）2―0府岡（福井銀行）

▽同準決勝 水上2―0梶谷、笠川2―0山内

▽同三位決定戦

山内（15 10―15 1 0）梶谷

▽同決勝

水上（15 18―6 14）笠川

〔男子ダブルス〕

▽準決勝 原・寺崎（敦賀ク）2―1笠川・水上（福井銀行）、梶谷・府岡（福井銀行）2―0山本・牧田（福井）

▽同三位決定戦

水上・笠川（15 15―0 11）山本・牧田

▽同決勝

府岡・梶谷（15 18―10 15）原・寺崎

〔30歳シングルス〕

▽決勝

高木（福銀）（15 15―7 8 4―15）（敦賀ク）鬻野

〔30歳ダブルス〕▽決勝

鬻野、原（敦賀ク）（15 11―7 7 15―7）高木、糸谷（武生）

〔女子シングルス〕

▽準決勝、岡崎（福井銀行）2―0稲木（同）、大久保（精華高）2―0角谷（福井銀行）

▽同三位決定戦

稲木（12 11 5―10 6 11）角谷

▽同決勝

岡崎（11 11―6 6）大久保

〔女子ダブルス〕

▽準決勝、稲木・角谷（福井銀行）2―1多田・河本（福井ク）、岡崎、島田（福井銀行）2―0竹内・藤井（高志高）

▽三位決定戦

竹内・藤井（17 15―15 9 9―15）多田・河本

〔混合ダブルス〕

▽準決勝 水上・稲木（福井銀行）2―1府岡・岡崎（同）、梶谷・角谷（福井銀行）2―0笠川・島田（同）

▽同三位決定戦

府岡・岡崎（15 15―7 5）笠川・島田

▽同決勝

水上・稲木（15 15―11 3 15）梶谷・角谷

大阪府

■第六回近畿教職員選手権（1月15日、大阪・阿倍野体育館）

〔一般男子〕

▽シングルス決勝

中西（和歌山新宮商）（15 15―6 12 13―15）賀祇王小）藤上信（滋

▽ダブルス決勝

杉田（大阪伊勢田小）四条畷小）（15―8 追 15―9）藤上（同祇王小）賀逢坂小）久保田（滋

〔30歳男子〕

▽シングルス決勝

北野（大阪向丘小）（15 15―14 11）彦根西）北村（滋賀

▽ダブルス決勝

北野（大阪向丘小）宝（15 17―8 教大付）来（滋賀彦根平小）寺田、北村（滋賀彦根西高）

〔40歳男子〕

▽シングルス決勝

青木（大阪茨木工）（15―8 15―7）神戸商）吉持（兵庫

▽ダブルス決勝

吉持（兵庫神戸商）長谷川（同郷和高）（15 7―15 15―7）藤（同箕面高）斎藤（大阪茨木工）青木（大阪茨木工）

〔一般女子〕

▽シングルス決勝

横田（大阪朋来幼）（12 12―11 9）畝北幼）大城（奈良

▽ダブルス決勝

横田（大阪朋来幼）東堤（高倉小）（15 15―4 2）土庫小）小薮（奈良）大城（畝北幼）

京都府

■46年度近畿総合選手権（3月19日・京都府立体育館）

〔一般男子〕

▽シングルス準々決勝

竹原（電電近畿）（15 15―11 12）小教）藤上（祇王

植田（近大）（15 15―8 4）機械）高木（京都

山口（電電近畿）（15 15―11 13）教）森（新宮商

佐藤（新宮商教）（15 17―6 15）近畿）竹内（電電

▽同準決勝

植田（15 15―14 11）竹原

山口（15 15―10 7）佐藤

▽同三位決定戦

竹原（乗権）植田

山口（乗権）佐藤

▽同決勝

山口（乗権）植田

▽ダブルス準々決勝

中西、佐藤（新宮商教）（18 15 11―11 13 15）三木、竹原（電電近畿）

植田、阪本（近大）（15 15―1 8）一条高教）茶谷、棟

山口、小野（電電近畿）（15 15―9 7）井（同大）赤星、六津

藤上、久保田（祇王小）新宮商教）（15 15―9 10）京都YMCA）入江、小島

▽同準決勝

植田、阪本（15 18―16 5）中西、佐藤

山口、小野（15 15―7 6）藤上、久保

▽同三位決定戦

中西、佐藤（15 12―9 15―11 15）田）藤上、久保

▽同決勝

植田、阪本（15 17―6 16）山口、小野

〔30歳男子〕

▽シングルス準決勝　栗（古河電工）2―0神吉（鳥楓ク）
北野（大阪教員ク）2―1溝淵（国際電電）
▽同三位決定戦　神吉2―0溝淵
▽同決勝
北野（1515―8―6）栗
▽ダブルス準決勝　本山・妹尾（塩野義製薬）2―1池部・森田（舞鶴病院）、北野・宝来（大阪教員ク）2―0本摩・北川（塩野義製薬）
▽同三位決定戦　池部・森田2―1本摩・北川
▽同決勝
北野、宝来（1515―3―10）本山、妹尾

〔40歳男子〕

▽シングルス準決勝　尾崎（三菱電機）2―0谷口（舞鶴ク）、八木（三菱重工）2―0紀田（舞鶴ク）
▽同三位決定戦　紀田（不戦勝）谷口
▽同決勝
尾崎（1515―1110）八木
ダブルス準決勝　尾崎・八木（三菱電機、三菱重工）2―0久代・曾根（舞鶴ク）、新宮・紀田（舞鶴ク）2―0谷口・広野（舞鶴ク）
▽同三位決定戦　久代・曾根2―0谷口・広野
▽同決勝
尾崎・八木（1515―8―10）新宮・紀田

〔一般女子〕

▽シングルス準々決勝
大場（東大阪短大）（1111―7―8）高田（四条畷学高）
柴山（東大阪短大）（1111―8―1）飯田（親和女大）
高崎（東大阪短大）（1111―1―3）餌取（電電近畿）
石崎（東大阪短大）（1111―0―5）岡崎（三菱自工）
▽同準決勝
柴山（1111―7―1）大場
高崎（1112―6―1111）石崎
▽同三位決定戦
石崎（11―5―3―11―2）大場
▽同決勝
柴山（1111―6―8）高崎
▽ダブルス準々決勝　柴山・石崎（東大阪短大）2―0山下・小林（三菱自工）、餌取・柿本（電電近畿）2―0禿・原田（彦根南中、しあわせ保育）、岡崎・永井（三菱自工）2―0田付・長谷川（滋賀清水鉄工、大五薬品）、高崎・大場（東大阪短大）2―0堀・佐々木（住友金属）
▽同三位決定戦　柿本・餌取2―1岡崎・永井
▽同準決勝
柴山・石崎（1515―4―5）餌取・柿本
高崎・大場（1515―6―0）岡崎・永井
▽同決勝
柴山・石崎（1515―7―1）高崎・大場

〔混合ダブルス〕

▽準決勝　木谷・佐古（電電近畿）2―1小島・樋木（京都YMCA、桂ク）、杉田・浪江（四条畷学教）2―0前田・山口（京都YMCA、桂ク）
▽同三位決定戦　小島・樋木2―0前田・山口
▽同決勝
木谷・佐古（1515―5―4）杉田・浪江



水鳥　検定合格球
ファストゴールド
ファストシルバー


ファスト印シャトル
コック製造発売元　有限会社　ジャワ商会
山形市六日町7 28
電話 02362（22）3994(代) 3280・0545

ラケットをあげて持とう

とにかく手をあげよう――というのが今回のテーマである。手というのは、ことばのアヤ、手をあげればラケットがあがる。ラケットをあげていなければいいプレーができない。

こんなことをいうのは、とくに指示しなければ、初心者のほとんどは、ラケットをだらりとさげたまま、相手の返球を待つことが多いからだ。指摘して教えても、いつの間にか、また下がってしまう。こんなことは名選手クラスにも見かけるが、それは時と場合による例外だ。レシーブの構えになってもダラリという人はいない。

他人のプレーをよく見よう、と本誌は講座関係の記事で何回か述べたことがある。プレーヤーが返球を待つ間、どんなかっこうをしているか、試合や、テレビで、写真で、みなさんはよく見ているはずだ。しかし、そんなことは格別、気にもとめず見すごしてしまいがち。余計な話になるが〝見る〟ことだってむずかしいのだ。

さて、いいプレーヤーが決してラケットをダラリとしていないとすれば、それには理くつに合った理由があるはずだ。皆さんだって、すぐわかるだろうがおもな理由は二つある。

一つは時間の節約、つまり早いタイミングで返球できるということだ。ヒジを軽く曲げ、身体のわき、あるいはやや斜め前（握りが腹ぐらいの高さ）にラケットを持つのが一般的だが、ここは、いわばラケットの位置の〝ホーム・ポジション〟だ。頭上、両脇、下の方いずれの場所からも均等に近い。

最も簡単なオーバーヘッドの例を考えてみよう。タマを打ち返すにはバックスイング（ラケットをうしろに引く動作）が必要であり、ついで、振りかぶって打ち下す動作に移る。

実際にやってみるとわかるが、ラケットを胸の高さぐらいに保持していると、打つために身体を右うしろにひねる動作にはいったと同じ瞬間に、ラケットを頭上右に移動させ、振り下すフォームをつくることができる。しかし、ダラリの下からすくいあげてきて、同じ動作はできない。身体をひねった時、おそらくラケットは、まだ、しりの上方、背中のまん中の高さあたりにあるだろう。

もう一つ、つけ加えれば、大きすぎるバックスイングは、打球のタイミングを遅らせるばかりかインパクト（衝撃の瞬間）で最大のパワーが加わりにくい。打つ動作とは、身体と腕をそれぞれ逆方向にねじることでもある。一方の動作に要する時間が長すぎたらカミ合わない。

ことばをかえれば、先号で述べたように、バックスイングはインパクトの力を呼び込むためであり、必要最少限度あればいいのだ。

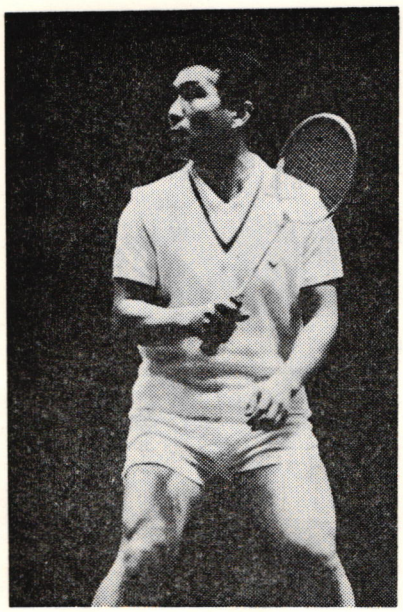
低いタマ、いわゆるアンダーハンドでとる場合は、ラケットが最初から下にさがっていた方が時間的に早い、と反論されるかもしれない。確かに、飛んできたシャトルにラケットを触れるだけなら早いだろう。だが、打ち返すことと当てることは意味がちがうのだ。

ゴムひもでパチンコ（かの有名なチン、ジャラジャラでない）をつくるとする。タマをはじくには、ゴムをひっぱってパッと離す。そうするとゴムがちぢんでもとにもどる力（復元力）に乗ってタマが飛び出す。

腕をゴムひもにたとえるなら最近からのびきって、弾性がなくなったゴムでは、パチンコには使えない。

もちろん、シャトルは腕だけでなく身体全体で打つ。低いタマの場合は、いくらか腰を曲げることになる。ラケットをダラリとしていて腰が曲がるとどうなるか。やはり、いったんは振り上げてから振り下さねばならないのだ。同じ動作なら、ラケットをあげて持っていた方がパワーが加わる。

横に走って打つ場合も（バックサイドなら特に）ラケットをさげていては走りにくい。軽い荷物でもぶらさげるのと、胸にかかえるのとでは、重さの感じがちがう。あげて持っていることをキモに銘じよう。



ダラリでは上達しない

ラケットにもホーム・ポジションがある

〝殺しのサービス〟をやろう

続・サービス

前回に続き、もう少しだけサービスについて書いてみよう。

前回はオーソドックスなサービスについて述べたこの場合、実力が互角のだとサービス・オーバーの繰り返しでゲームが膠着することが多い。そんな時、有効なのが〝殺しサービス〟（私は勝手にそう呼んでいる）だ。

これは偶数カウントのときにのみ有効である。ゲームが伯仲どうしても一本だけでも先行したいとか、マッチポイントを握りながら、あと一本がとりにくいような場合、効果的である。

相手の逆を突く

概してゲーム後半、または終局に近ずき〝ここ一番〟の勝負時に使う。前半でやたらに使うと相手に以後、警戒心を抱かせ効果がうすれるからだ。

この〝殺しサービス〟は横なぐりの要領で、しかもネットすれすれに素早く打つ。**狙いは図1のA地点**である。

普通のサービスは下から上へすくい上げるわけだが、ここでは横なぐりするのが大きく異なる点である。

この利点は、①レシーブ態勢の逆（**図2**）突く②相手が早く大きく後方へ上体をのけぞらし、かつ、オーバーヘッド・ストロークまたはリストの利かないバックハンド・ストロークでのレシーブを強要させる点だ。

したがって、サーバーにとってはまたとない絶好球が返ってくる可能性が絶大だ。初心者や中級者のほとんどは、面くらってしかない。ダブルスでは狙う場所がもっとふえるが、シングルスではオーソドックスな配球

図1

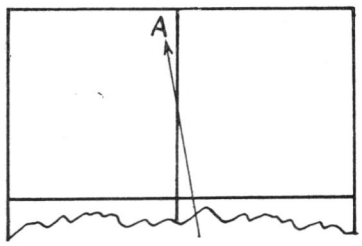
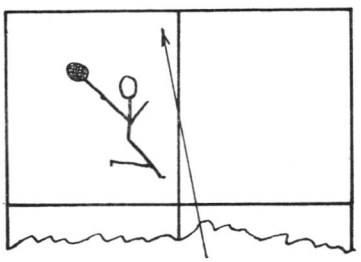


図2



〝四角〟への原則守る

レシーバーはまず自分の態勢を正す

日本協会競技力向上委員　佐藤茂雄

一二カ所にハイ・クリアまたはドリブン・クリアを返球して相手の動きをうかがい、あと二、三本ようすを見た上で攻撃側にまわるのがよい。レシーバーにとって第一に心掛けるべきは、**自分の態勢をただすこと**だ。

それにはサーバーを遠く、大きく動かすことが大切。当然、バック・ラインの両コーナーをねらうのがよかろう。といってもクロスでねらうよりストレートの方が、レシーバーのエネルギー消耗が少くてよい。そのようすを見たのちゲーム展開にはいっていくのが順当である。

② サーバーはサービスと同時に半歩または一歩後退してレシーバーの返球をうかがうものである。そこで①の後方への一本目のレシーブとは逆にネット前の両コーナーをねらうのも効果的なレシーブの方法である。

サーバーが一瞬さがったと同時に、そのスキにネット前へストレートのカット、ドロップを打つ。ストレートの方がサーバにとっては遠く、取りにくい。同時にレシーバーにとっては入れやすいこともある。

しかし、そのカットなりドロップを、サーバーがただちにヘアピンでレシーブしてきたならば、レシーバーにとっては、バック、ラインから最も遠いネット前まで走らされることになるのだから、そのときはレシーバーにとって、最も不利となる。

従って、態勢を立て直し、ホーム・ポジションへのリターンを考えた場合は①の方法がよいことになろう。

（筆者は東大阪短大監督）

サービス・レシーブ

しょせん、配球には四コーナーに限定するのが望ましい。

とくにロング・ハイ・サービスのレシーブの場合には、いくらリキんでスマッシュしても相手サーバーに脅威とならない。とすれば無暴かつエネルギー浪費を避けて、オーソドックスなレシーブを四コーナーに送るべきである。

① バック・ラインのコーナ

プレーヤーへの手紙 ⑬

長身選手に共通の問題点

足を使わず、反射遅い

「利点が逆に作用」

前日本教職員連盟常任理事 三須徳次

器具を使用してのトレーニングの問合せがありましたので、前回は器具についての紹介と説明を入れてしまいました。バドミントン選手は脚力・腕力など全身の強化、瞬発力、持久力の養成に是非、器具を使用して、トレーニングに励んでもらいたいと思います。

現在、連載しております。長身の選手達に類以している人にはどうしても、実行してもらいたいと存じます。

「緩慢な動作」という意味は背の高い選手が、シャトルを捕るときに上で捕る場合も、身体を伸ばして前方のシャトルを捕る場合も、余り足を使わないことによる結果、条件反射が遅いということです。

「ハイ・クリア、ドリブン・クリアが打たれたとき、普通、二歩後退しなければならないフライトも、背の高い人は一歩で捕ることができますし、ネットに前進するときも、普通の選手ですと、鋭く突進しますが、反対に背の高い人ほど、身長を利用してシャトルが捕れるので、なんなくネット前を処理しております。

つまり長期間に自分の身長を利用して練習をしているので、自然と第一歩目が遅れても、シャトルに追付けることが多く、シャトルを待ち受ける体勢づくりが下手になっております。

銭谷選手の大学一年生ごろはネット附近でシャトルを捕るのに、かなり下で打っておりましたが、次第に打点が高くなり、打点が高くなってくると同時に強くなってきましたので、努力のあとがうかがわれます。

しかしバック・バウンダリー・ラインに押し込まれ、体をそらしたり、体勢が崩れての返球は、自分からコート外に出すことが多いので、これからの課題で、本格派の大型プレーヤーになれるかどうかの境目です。

山田選手の一番の欠点は、腰に安定性がなくスピードで押しまくられたりしますと、常に腰がフラつき、確実な返球が少ないこと。もっとシャトルを打ち込んだり、トレーニングに時間をかけなければ、上位にくいこむことは不可能です。

山田選手のように腰が小さく、安定性がない人達は、スポーツ関係では日常的な言葉になってしまいましたが、ウェイトリーが単発ですんでしまいますと、行動範囲も少なく、社会人や大学プレーヤー同士の〝ねばりっこに〟欠けてしまいます。

私は長身者と、比較的背の低い人のテストを、中学生でためしてみました。（登場する中学生は三名とも、セカンド・ネームにしました）

マック君167センチ、トマス君163センチ、ケラー君149センチ。一番身長のあるマック君は、バドミントンの経験が14カ月以下、トマス君5カ月、ケラー君10カ月で、最初のうちは経験のあるマック君が一番強く、ケラー君、トマス君と続いておりましたが、意外にトマス君の運動神経が発達していたので、ラケットを手にして3カ月目ぐらいには、トップになりました。

そのまま進めばトマス、マック、ケラーの順序になると思っておりましたところ、149センチしかないケラー君が、マックやトマスを抜いて一番強くなりました。ケラーは背が低いために打点も三名中で一番低く、スマッシュもスピードがありませんけれど、よく動くことと、レシーブがよくなったことが目立ちます。

中学生では経験も浅く、結論を急いだり、大学生以上と比較対象はできませんが、一般的に背の高さだけにはたよれないということがわかります。

銭谷・山田選手のように、高い位置から動かずに打つスマッシュは、威力がありますけれど、動いて打つと効果が半減してしまいます。

腰の安定性に例をとりますと、山田選手の臀部がうしろにつき出るスタイルになれば、バドミントンが強くなります。お尻が横に発達するより、後部の筋肉が発達している選手ほど、バドミントンが強いことを、皆さんはご存じと思います。

銭谷・山田両選手ともシングルスを得意としておりますが、二人がダブルスを組んだことを仮定して（一度組んだことがある）次回はダブルスについて筆を進めます。（続）

走り込みの効果を重視しよう

体力が生む自信、技術

「脚力は万能のもと」

日本協会競技力向上委員長
伊藤基記



走ることの効用を再検討し、再認識することはムダでないと最近、痛感している。

その理由の第一は脚力の養成維持である。これから伸びようとする若い諸君には養成であり、一応できあがっている者にとっては、維持である。すべてのプレーは足の上に載せられている。脚がもつれたリケイレンしたのでは、技のふるいようがない。腰がきまらず、ストロークから力強さとコントロールが消える。第一リーチがせばめられるから、配球がすべて後与にまわることになる。

その第二はスタミナである。息がアガったら打てるストロークも逃げてゆく。限度を越えた呼吸のはずみはストロークから正確さ追いだしてしまう。

その第三は精神力というか、心のスタミナというか、自信といってもよいだろう。これぐらいでは脚の動きも大丈夫、心臓の負担もOKという自信の有無がどんなにポイントに影響するかいうまでもない。

走りこんだ者にとっては、普通の人にはオーバーであり、苛酷でさえある脚や心臓への負担も、むしろエンジンの好調を示す、快感でさえあり得る。

さて、私はただ単に「走りこむ」という表現を用いたが、その内容はその文字とはうらはらに、なかなか複雑である。いつどんな場所をどんな走法で、どれくらいのスピードで走るかという〝処方箋〟を書くことはむづかしい。計画は慎重であり、実行は果敢でなければならない。

走るこむのこむは充分という風に解釈してよいだろう。しかしこの充分とは、ただたっぷり余計に、速く、遠く走りさえすればよいというのでないこと、もちろんである。

理想的にはクロスカントリー的に、多少の山坂、凹凸のある田舎道、山野の中を自由に走りまわるのがよい。排気ガスの充満する市街地はなるべくさけた方が賢明であることは、いうまでもあるまい。

アスファルト道路で、ヒザやカカトを痛めて、選手生活にマイナスになった例も多いので注意を要する。

海岸や、遊歩道に適当なところを見出せればさいわいである。

走った直後にプレーがあるのでなければ、準備的な走でなく、トレーニングとしての持久走として、相当の距離を走り、時に、限界に近い負担を心臓にかけることをおすすめする。

走り終って、二、三百メートル軽いジョッグか、歩くことをすれば呼吸がおさまり、疲労が翌日に強く持ち越されるのでなければ、まず適当と考えてよいだろう。長距離的な一万メートルを越えるものは、快よく走る程度にとどめ、中距離的な五千から千五百メートル程度のものなら、相当、イキがアガる部分をつくってよいと考えている。

きょうはコート内の練習ができないからという、補充的な意味の場合であるか、合夜中でトレーニングを主目的とするか、練習、試合の準備運動的な意味を持たせるかなどにもよるし、年間や月間、さらに、その週の計画によっても、距離やスピードが変ってくるだろう。

第一、個人の経歴や、体力にもよることだから、何メートルを何分で走れというわけにゆかないが、一日の練習が終ったあとで、経験による、ある種の充実感があって欲しい。

なお、走法についても、いろいろの方法が考えられる。挙股や大股、あるいはピッチをあげる走法などを適宜、挿入する方もあるだろう。

が、しかし、各種走の方は、短距離のダッシュとあわせて、運動場などで行うことにゆずり、自然に走り、自然にスタミナをつけてゆくことに専念することである。

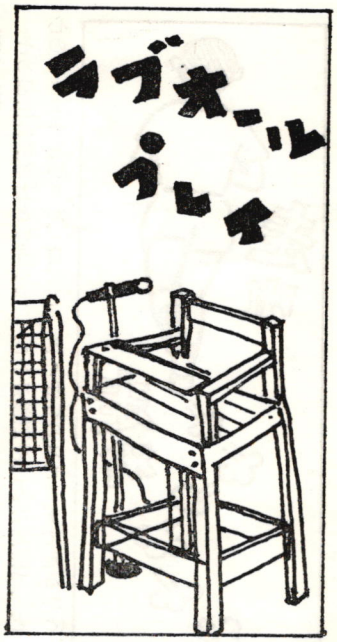
ともあれ、走り込んだあとの練習や試合に、その効用が現らわれて、やはり走りこんでおくとよいなという体験をすることが大切である。

コートの中での練習試合にのみあけくれて、あお白い顔色をしているようでは、まず、遠からず衰退するものと見てよい。イキの長いプレーヤーに諸君がなりたければ、陽やけした顔や身体に自信と自負を持つことが先決である。

走りこみが不足して、下腹が出ているようでは、とうてい望みはないと考えていただくよう成壮年の方にも苦言？を提して、この稿を終る。

《新連載》

ラブオールプレイ



用語はできるだけ正しく使おう――これから何回かにわたって連載するこの欄は、新聞・報道関係で、よく使われるものをまとめたものである。内容的に通説の部分までふくめたが、用語の「表記」は共同通信の新聞用語法に統一してある。

アの項

アウト・オブ・ハンド・サービス（Out of hand service）
シャトルを手に持ったまま（または離れた瞬間）に打つサービス。ショートサービスやドリブンサービスに有効に使われる。最近では大部分がこの打ち方をするが、初心者向きでもある。これに対し、シャトルをいったん放り上げてから打つ方法をトス・サービスという。

アウトサイド（Out side）
サービスを受ける方、この逆がサービスする側でインサイドという。

アップ・アンド・バック（Up and back）
トップ・アンド・バックと同義語。ダブルスのフォーメーション（陣型）のひとつで、一人がネットぎわ（前陣）一人が残る地域をカバーする。混合ダブルスに多く見られ、ひと口にいって攻撃型のフォーメーションである。

アンテシペーション（Anticipation）
囲碁や将棋の〝読み〟と同様に、相手の動きや心理を予見する力。転じて相手のプレーを見破り、その逆を突くこと、裏をかくこと。最近ではフェイントということばも同義的に使われている。

イ、ウの項

イースタン・グリップ（Eastern grip）
ラケットの握り方のひとつで最も一般的なもの。卓球のシェークハンド型（握手をするときの手の握り方と同じ）と同じでラケットの打面が床（水平面）に対して垂直になるような握り方。相手方に対し、からだを横にして構えるとラケットの打面は自然に正面を向く。
手首の自由がきく、打面の裏表を比較的自由に使え、リーチも広い利点がある。これと対照的な握り方がウェスタン・グリップ。

イニング（Inning）
一方のサイドのサービスに始まりサービス・オーバー（サービス権を失ない、相手サイドにサービス権が移る）までの間をいう。

イン（In）
シャトルコックがコート内に落ちた状態。コートの内外を分ける白線上に落ちた場合（オンライン）はインと判定される。シャトルの一部分でも白線上にあれば「イン」である。ただしシャトルの台（半球部分）が線の外側に落下したのち、羽根の部分がコート側に倒れたときはその限りでない。「イン」の反対は「アウト」

インサイド（In side）
サービスをする側のこと（アウトサイドを参照）サーバーはその権利を持つプレーヤー。

インプレー（In play）
シャトルがサーバーに打たれてから、フォルトが生ずるまでをいう。ことばを変えると、ラリーが続き、プレーが継続している状態。

ウッドショット（Wood shot）
ラケットの打面に当たらず、フレーム（ワク）の部分に当たったショット。最近はフレームが必ずしも木製ではないが、通用語として使っている。

エ、オの項

エース（Ace）
カード（トランプ）の1、つまり〝切りフダ〟から転じた。球技では本来、文句なくポイントになる打球（ノータッチ、つまり相手が全然、ふれることができないもの）を指すが、さらに進んで、自分の最も得意とする決め手の意味で広く使われている。
また、もっと広く、チームで最も強力なプレーヤーをいう。野球なら主戦投手、バレーでは最強力なアタッカー、バスケットでは得点力の最も高いシューターなど。戦争では撃墜王をエースといっている。

エンド（End）
ネットで仕切った片側のコート。最近ではサイドという。ボールゲームでは「エンドを入れ替える」とはいわず「サイドを入れ替える」または「サイドチェンジ」という。

オーバーヘッド・ストローク（Over head stroke）
頭上に落ちてくるシャトルまたは高く飛んできたシャトルを頭上で打ち返すストローク。フライト（飛行線）の種類によりクリア、スマッシュ、ドロップカットがある。

オンガード・スタンス（On guard stance）
守りを固め、攻撃の口火を切るための足の位置どりが本来の意。一般には戦斗体勢、スキのない構えをいう。腰を落としカカトをあげ、上体を前に傾斜させてラケットを構える。（続）

昭和47年度用具検定会合格用具

日本バドミントン協会用具委員会

シャトルの部	銘柄名	会社名	予定小売価格
（水鳥）	№200 O G. S. ゴールド	大阪合繊株式会社	1,900円
	№205 O. G. S. シルバー	大阪合繊株式会社	1,750
	エリート デラックス	河崎ラケット工業株式会社	2,300
	エリート トップ	河崎ラケット工業株式会社	1,950
	サンワ印 ハイレッド	株式会社 三和	1,900
	水鳥ファスト ゴールド	有限会社 ジャワ商会	1,800
	水鳥ファスト シルバー	有限会社 ジャワ商会	1,650
	トーナメント ブラック	株式会社 トヨダスポーツ	1,800
	トーナメント ブルー	株式会社 トヨダスポーツ	2,000
	ホワイトジェム	株式会社 トヨダスポーツ	2,250
	C.M.印 ホワイトウイン	日本バドミントンインダストリ株式会社	1,500
	C.M.印 シルバーブルー	日本バドミントンインダストリ株式会社	1,400
	C.M.印 ゴールドブルー	日本バドミントンインダストリ株式会社	1,200
	ハタチ・ビクトリー	羽立工業株式会社	2,400
	水鳥サンバタ スター	株式会社 諸江製作所	2,300
	水鳥サンバタ キング	株式会社 諸江製作所	1,950
	水鳥サンバタ クィーン	株式会社 諸江製作所	1,800
	トーナメント デラックス	株式会社 ヨネヤマラケット	2,300
	トーナメント	株式会社 ヨネヤマラケット	1,950
（陸鳥）	陸鳥ファスト検定球	有限会社 ジャワ商会	1,100円
	陸鳥ハタチトーナメント	羽立工業株式会社	1,800
	陸鳥サンバタ	株式会社 諸江製作所	1,150
	陸鳥サンバタ B	株式会社 諸江製作所	1,150
	トレーニング検定球	株式会社 ヨネヤマラケット	1,150

ネットの部	銘柄名	会社名	予定小売価格
	ナイロン A 15本	鐘屋産業株式会社	3,000
	ビニロン B 12本	鐘屋産業株式会社	2,500
	70—2112（210ビニール12本 ナイロン・テトロン引紐）	株式会社 ジイテイヤング	2,800
	70—3115（20番手12本綿，テトロン引紐）	株式会社 ジイテイヤング	2,500
	70—3015（20番手12本綿，クレモナロープ引紐）	株式会社 ジイテイヤング	2,200
	バドミントンネット KT—518 ビニロン	株式会社 寺西喜商店	2,400
	20番手12本 倉敷ビニロン	松本製網株式会社	1,900
	ミセキネット No.50 VA	ミセキネット製作所	2,800
	ミセキネット No.52 A	ミセキネット製作所	2,200

今月の言葉

子供を生むこと、育てることは私的行為であるが、実に大きな社会的責任が伴うことを世の親たちは忘れてはなるまい。（「赤軍派を育てた〝民主〟教育」池田清＝文芸春秋から）

右のことばをバドミントンとか、スポーツの場合に置きかえてみたらどうだろう。それは、たとえば次のような表現になるだろう。

「バドミントンをやること、選手になることは私的行為であるが、大きな社会的責任が伴うことを、選手自身も指導者も忘れてはなるまい」

いよいよユーバー杯の舞台を迎えた。代表選手たちは注目されている。強いプレーヤーとしてだけでなく、人間としても。

スポーツは好きだからやる。それは当然だ。しかし、いったん、その道にはいると、欲も出て来て、勝ちたくなる。そのための努力も惜しまぬようになってくる。これも人間が持つ競争心、向上心からして当然だ。

スポーツも社会生活の一部である。相手があり仲間がある。指導者がいる、試合や練習のために進行や運営を受け持つ人がいる。プレーを見て楽しむ人、成長に期待をかける人、そういう人もいる。スポーツの世界もこういう、さまざまな人の協力や善意で成り立っている。

期待なんか、かけられて迷惑だ、やめてくれ、といってしまっていいだろうか。

こうした周囲の〝しがらみ〟は、その選手が最高レベルに近づけば近づくほど、密度が濃くなっていく。時には、やりきれぬこともあるだろう。

選手の社会的責任

代表は私的存在ではあり得ぬ

しかし、現代社会では、いったん、新聞やその他マスコミの活字になり、写真や映像で世間に紹介されたら、その人の意志とは関係なく〝公的人間〟いわゆる有名人の仲間に入れられたことになってしまう。

レベルの高い選手になればなるほど、そういうことの意味をよくかみしめなければなるまいと思う。

オリンピックのたび「金メダルの期待」とか「日の丸の重荷」とかが話題になる。バドミントンの世界選手権でも同じことがいえる。

選手は自分が好きだからプレーし、自分のためにプレーするのだ。日本の国のためにたのまれてプレーするのではない。しかし、同時に、たとえばユ杯の代表であることは、日本の代表であることだ。

少くとも周囲はそういう気持ちでプレーを見、選手を見る。一種の親近感→好意→期待→尊敬→あこがれという心理が働く。いらざるおせっかいだとわめいても、第三者の心理は変えようがない。

もう一つ、そういう立ち場の選手に必要なのは、自分の財産を後継者に伝えることだ。かりに海外遠征から帰ったとたん「やめる」といったら、その選手に注いだ強化の〝財産〟はだれが受けつぐのか。社会的責任の中には、そうした意味もある。

自由、権利の裏側には責任と義務がはり合わされている。スポーツは教育の直接手段ではないが、やはり学ぶべきものを持っている。

編集室

○…急げ幌馬車、夜道を駈けて、と昔の歌の文句ではないが大車輪で本号をつくった。それでも、これが読者の手元に渡ったときは、多分、ユ杯が始まっているはずで、タイミングがなるべくズレない記事をと考えたのだが、申しわけない。しかしこれでやっと、本来の軌道に戻れた感じ。次号からは、ほぼスムーズに走れるのではないか。

○…ユ杯のため、写真グラビアを12ページにふやしてみた。とくに、一選手を1ページ大で6ページも読けたのは今日が初めて。結果はどうだったでしょうか。後半の部分にある合宿トレーニングの写真も、本当はもっと盛大に盛り込むつもりだったが、紙数の関係で、かなり小型になってしまった。

○…マンガにバドミントンが登場した話は、スタート二、三週間してから耳にはさみ、それ、と買ってみた。世の有識者やおえら方は、本誌がこうしたものをとり上げることに異論があるかもしれない。しかし、読者の多くは若い人。普及段階にあるバドミントンとしては、とにかく材料があれば、それを知らせ合い、お互いの連帯感を強めることが先決だと考えている。

○…新しく登場したものに用語の連載シリーズがある。原本は共同通信、竹市記者をわずらわし、本誌的に一部着色してある。カナ文字の用語は、表記を統一することがむずかしいが、今後、本誌もこの欄をモデルに順次、統一表記にしていきたい。

○…叙勲を受けた広田副会長から〝昔むかし〟のワイド版を特別寄稿いただいた。写真も珍らしいものばかり。なつかしく思い出す人、こんなこともあったのかいな、と話のタネにする人、さまざまだろう。

次号はユ杯の特集。できれば豪華グラフにカラー版をはり込みたいと思っている。

【バドミントン界】第33号
昭和47年5月25日　印刷
昭和47年6月1日　発行
発行所　編集兼発行人　川端昇市
東京都渋谷区神南一の一の一
岸記念体育館内
日本バドミントン協会
電話　四六七・三一一一（内線）二五一
四六七・七〇九五（直通）
郵便番号・一五〇
振替口座・東京三二一九三
印刷所　東京都豊島区南大塚二一二九
明宏印刷株式会社
定価　一部　百三十円



Uber Cup team's Special Training Camp
at Kodaira, a suburb of Tokyo



限りなき前進









明るい初夏の日ざし。選手たちは思い切り太陽をあびてトレーニングを積む。ランニングで汗をかき、サーキット式にくふうされた運動に取り組む。寝ころんで起き上って方向転換してまた寝ころぶ。ウマ跳びしてウマの下をくぐり抜け、またとぶ——筋力を鍛えながら反射神経を養う。だが、なんといっても楽しいのは食べること。!?

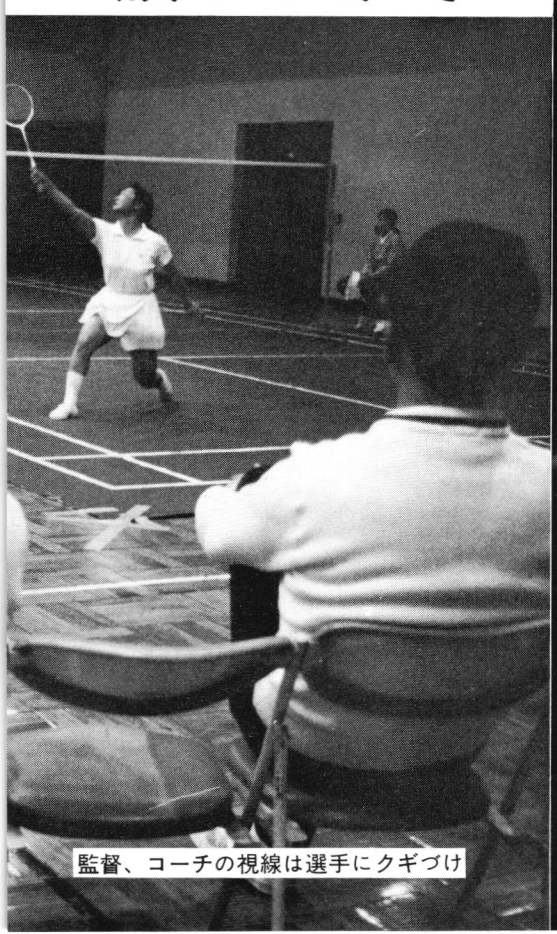




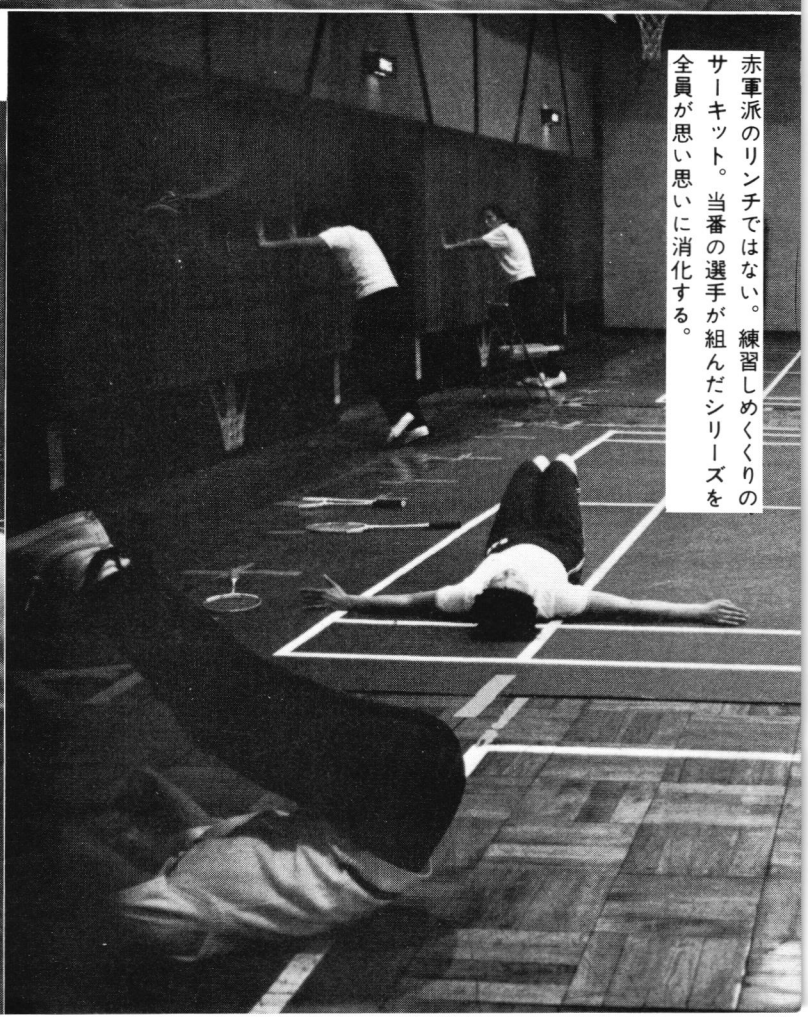


実戦さながらの練習、スタンドには女学生がいっぱい。

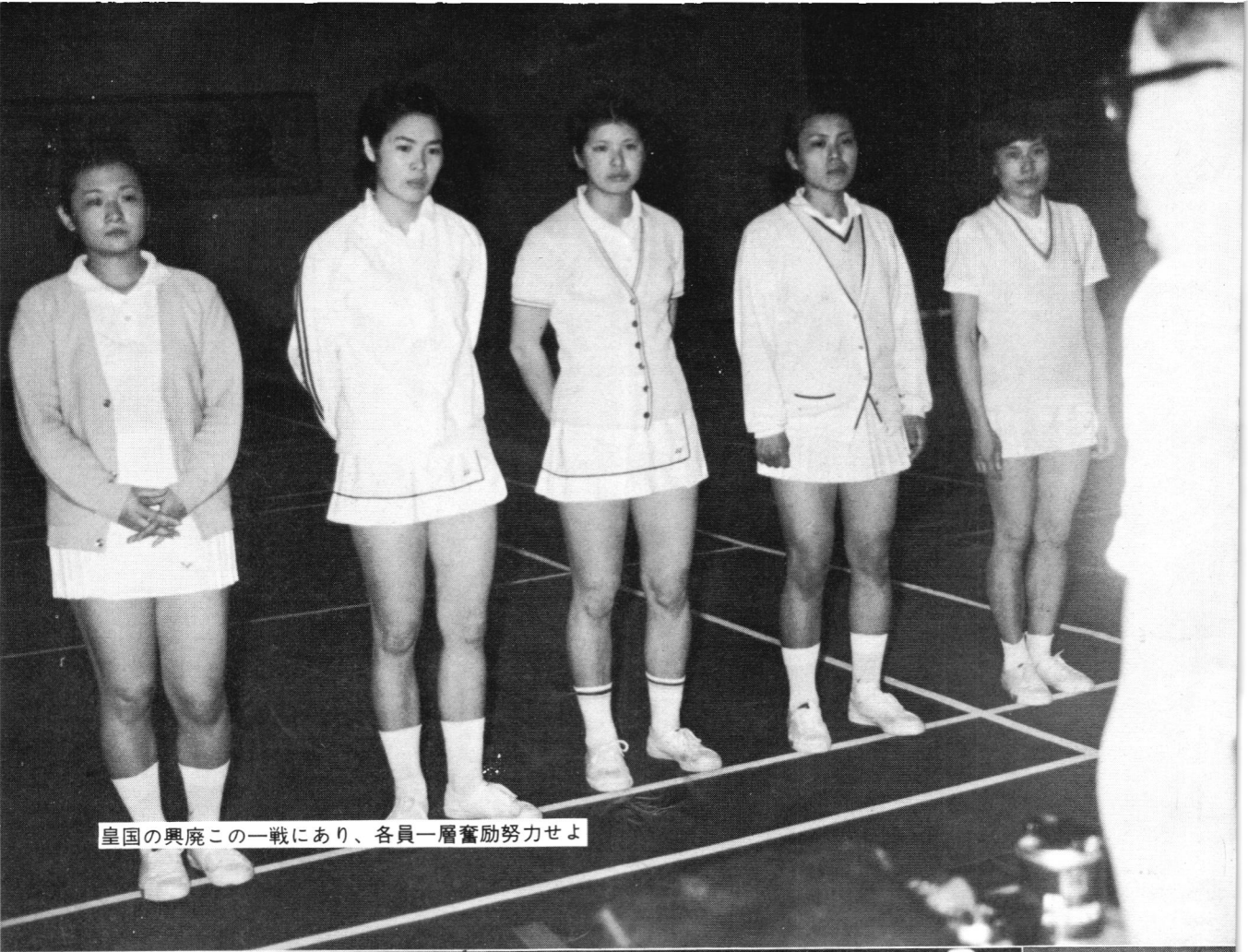
Z旗かかげて



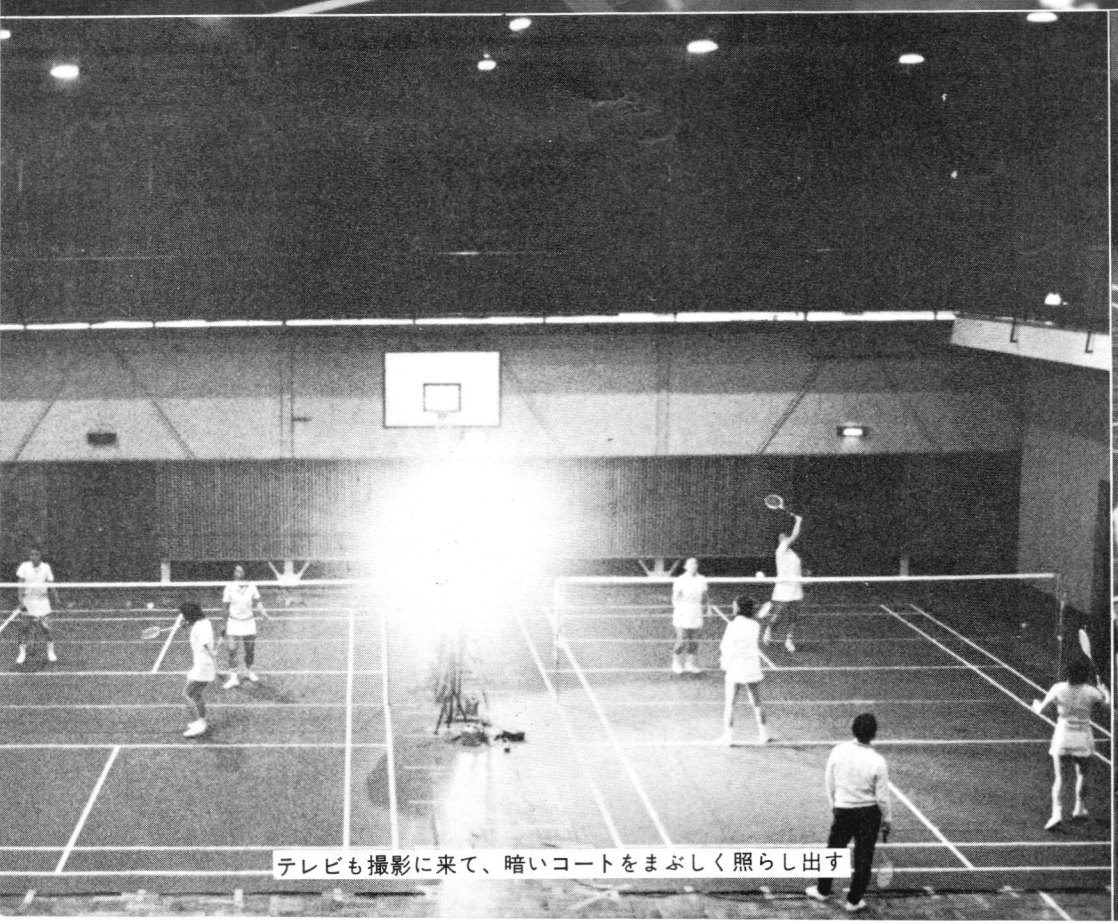
監督、コーチの視線は選手にクギづけ



赤軍派のリンチではない。練習しめくくりのサーキット。当番の選手が組んだシリーズを全員が思い思いに消化する。

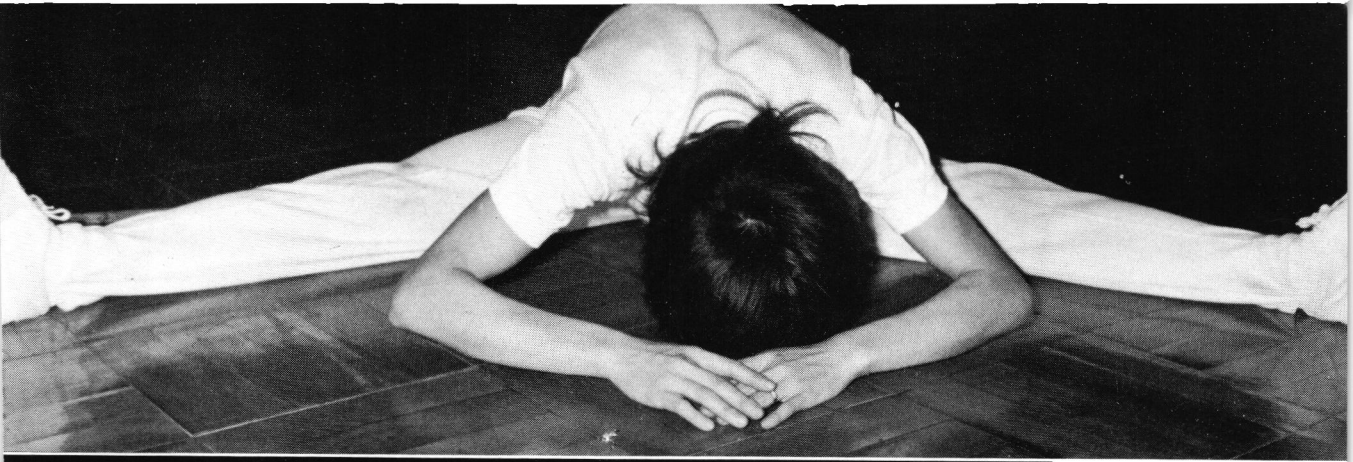


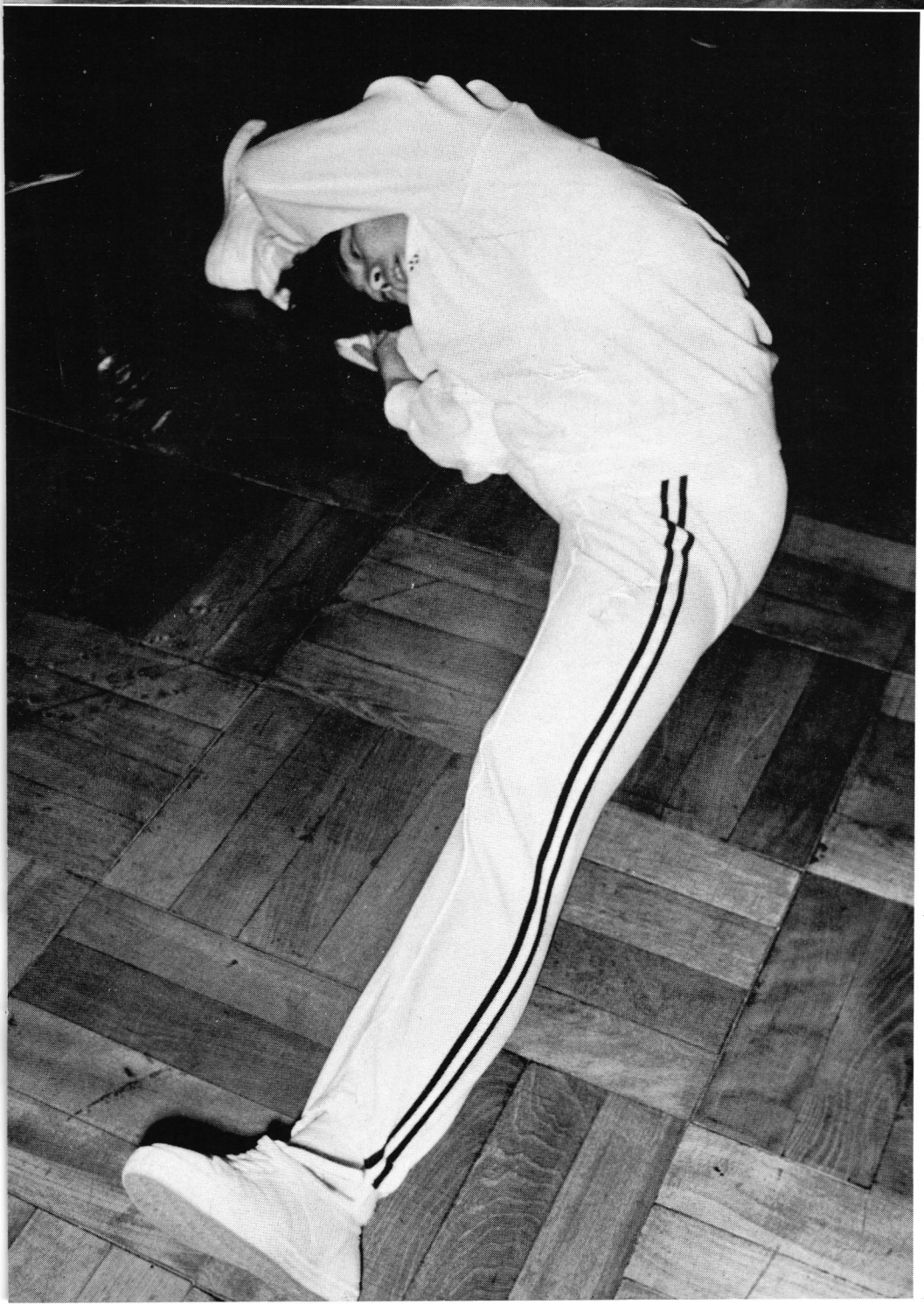
皇国の興廃この一戦にあり、各員一層奮励努力せよ



テレビも撮影に来て、暗いコートをまぶしく照らし出す







まいった、ご勘弁を???

キミの身体はどのくらい柔らかいか。トシが若いんだから、このくらいは朝飯前だろうね。一見「かんべんして下さい、もう」といっているような、この写真は、もちろんユ杯チーム合宿のひとコマ。あるいは必勝を神に祈っているのかもしれない。

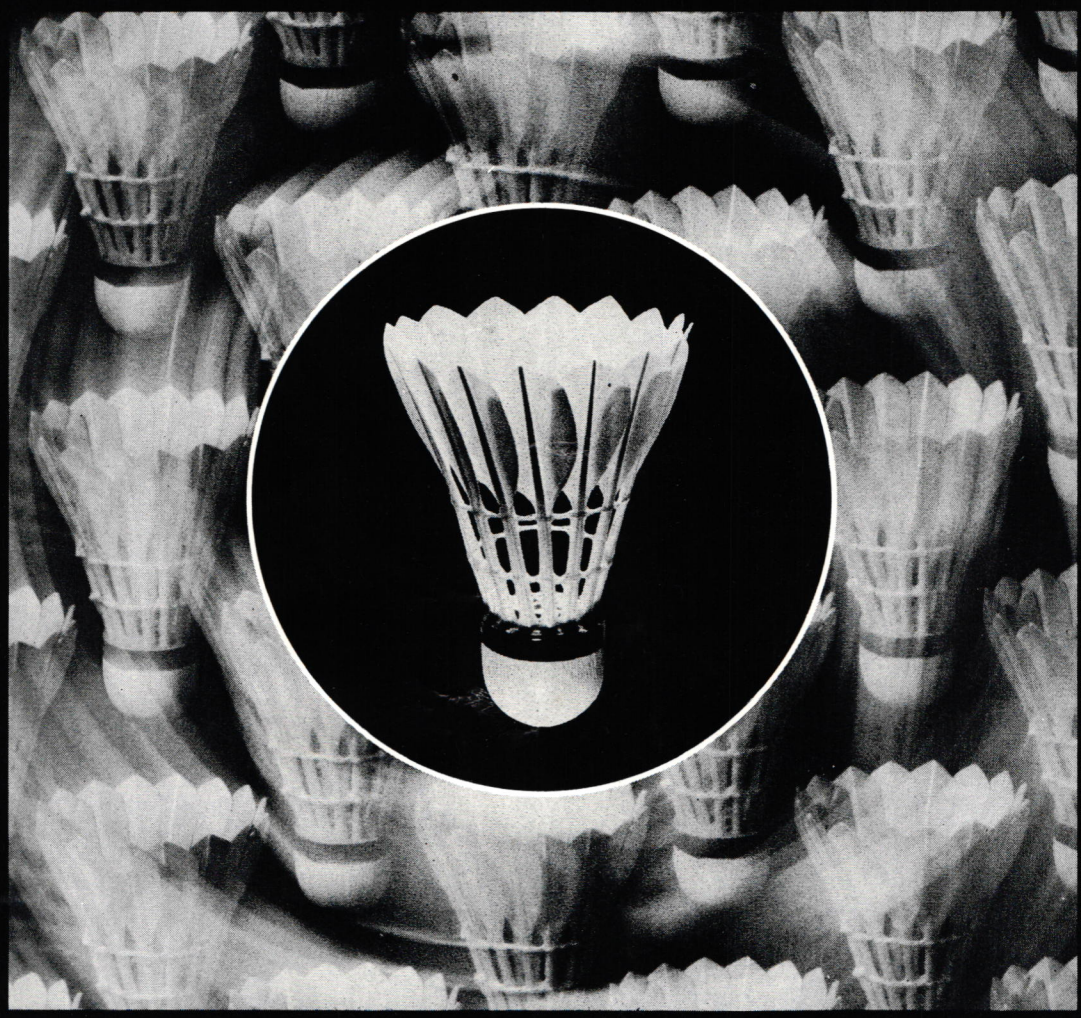
とにかく、このくらい筋肉が柔軟でなければ、いい選手にはなれないノダ。キミもいますぐ決心して、トレーニングに励もう。

ところで、この二人はだれだかわかるかナ。

✳“本物のよさ”が人気の的(まと)です。

エリート デラックス

《日本バドミントン協会検定合格球》



エリート・シリーズ

❖エリート デラックス
〈検定合格球〉 ￥ 2,300

❖エリート トップ
〈検定合格球〉 ￥ 1,950

❖エリート エース
〈試合球〉 ￥ 1,800

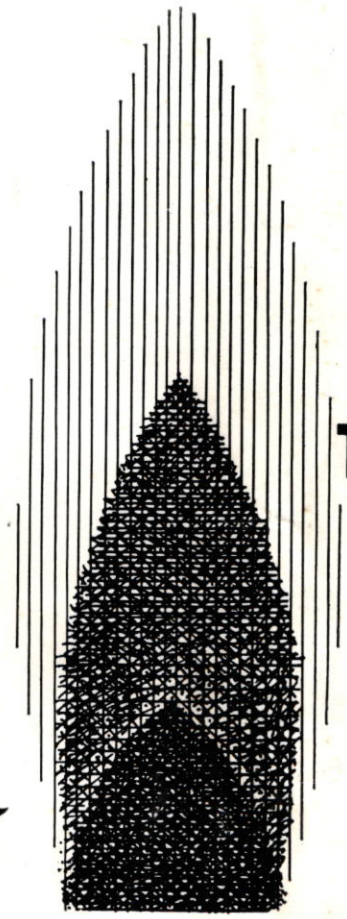
❖エリート ストロング
〈練習球〉 ￥ 1,450

❖エリート スペシャル
〈練習球〉 ￥ 1,150

K TOKYO

河崎ラケット工業株式会社
東京都台東区台東2-28-5 TEL831-0453・1884

月刊「バドミントン界」第33号
昭和四十七年六月一日発行（毎月一回一日発行）
昭和四十四年十二月二十三日 第三種郵便物認可
発行所
東京都渋谷区神南一ノ一ノ一
岸記念体育会館内
日本バドミントン協会
定価百三十円



TOKYO gas

東京瓦斯株式会社

東京都中央区八重洲1の3
電話(273)0111(大代表)